

放送人の会

No.102

2024.10.04

消夏座談会

特集号

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館3階 Tel&fax:03-3221-0019 Mail:info@hosojin.jp

発行 一般社団法人・放送人の会 会長 今野 勉 編集 菅野高至、青木裕子、鈴木典之、逸見京子、田中典子、

事務局 深尾隆一 須斎恵美子 <http://www.hosojin.jp>

テレビ年齢だけでも、『還暦』になった その2 3年無休

放送人の会 会長 今野 勉

報道望みがテレビ演出部

58年の秋、東大の本郷で行われたラジオ東京の入社試験に行く。新聞記者志望だから、本当は受けるつもりも無かったが、行ってみたら驚いた。2千人が集まっていた、これは駄目だ受からないと思っていたら、40何人の合格者に入ってしまった。

人生って本当にわからない——。

59年4月、ラジオ東京の社員となる。23歳でテレビの現場に入ったから、とうとう半世紀を越え、「テレビ年齢だけを数えても『還暦』」になっている。この60年は、テレビの勃興期から、テレビが今少し力がなくなってきたいる、それを丸ごと体験しているわけだ。

かくして、新入社員の僕は報道局の実習に3日間、行くことになる。報道局の人はほぼ局舎から出ないで、カメラマンが撮ってきた映像（フィルム）を次から次と見て、ニュース用のコメントを書くのが、テレビ報道の仕事だと気づく。新聞記者は現場に行つて取材する、だから面白いのだ。

想像していた記者とは全く違うので、「テレビは、どこが面白いの？」と聞いたら、テレビ演出部が面白いと言う。

土壇場で志望をテレビ演出部と書き直す。入社したばかりで突然、報道から演出部に移るのは前代未聞だったが、僕は割と入社試験の点数が良かったらしく、誰か、お偉い方の一人が「コイツ行きたいっていうから移らせるよ」

と言ったらしい…。

ナマ放送でヒタツと終わる神業

最初にADだったドラマは「若君日本晴れ」、時代劇だった。他に、夕方放送の子供向けクイズ番組などにつく。

入社当時は、みなナマ放送だった。ナマだからADと言えどもマキとかノバシがある。

おかしいよね、ノバシってやると、内容と関係なく役者が全員セリフをゆっくり喋り、動きもゆっくり呑気に歩いたりする。マキってやると、みんな早口で喋りはじめる。

時間内に入れるため、どこでマキをかけるか、神業のベテランチーフADがいた。ナマ放送で、毎回ヒタツと時間に終わる…まさに神業、本当にびっくりした。

カメラ割やっつて

カメラの台数は基本3台だった。生コマースャルはスタジオの隅にちよこんとセットがあつて、ユマーシャルタレントがADのQで宣伝を始め、商品を見せたりして終わる。

すると、ドラマのセットで役者が芝居を始める…思えば、すごい時代だった。

カメラクルーが絡まぬように、Aセットでやっついて次にBセットに行くには、Aセットのカメラ3台のうち、どのカメラを先に行かせるか。本来はディレクターが決めるものだが、ラジオから来た演出はできない。

3か月ぐらいドラマのスタジオに入り、何日かADをやった僕らに、ラジオの演出は誰もが「カメラ割 やっつてよ」と言ってくる。

生放送だから、カメラ割りは全シーンをやりくりしなきゃいけない。そのやりくりを考えるのが大変だった。僕は、そういうやりくりを考えるのが割と好きだったから、うまく計算して、こういうふうにはやれば絶対にいけると紙にダーツと書いてカメラマンに渡すと、びったり全部、その通りに収録が進んで、ちゃんと終わるんです。

あいつがADのときは現場がうまくいくと認められ、割と早くディレクターになった。

3年間、1日も休みが無い

演出部にはいろんな番組があつて、いろんな種類がある、クイズ番組、子供の番組、普通のドラマ、音楽番組等々。段取りさせると巧いADの僕は、多いときは1週間に4番組ぐらいつけられる。みんな全滅別々で、それを全部こなさなきゃいけない。

阿佐ヶ谷の下宿は夜10時とか11時には閉めちゃうから、遅いと帰つても入れない。だから3年間、下宿に帰つて寝たことがなかった。会社の寮とか、会社の近くの旅館、直営や契約の旅館が何軒もある。夜中2時ぐらいに仕事が終わると旅館に泊まる。

早朝番組の時も泊まる。当時はみな生放送だから、朝4時から5時から準備しなきゃいけない。3年間ぐらい、4時頃起きてスタジオに行く生活で、1日も休まなかった。1日も休まず、365日毎日行っていた。大晦日も行つて、元旦にも行つて、それが3年間続いた。

それぐらい働かないと番組が出ないのだ。エリアのナマ放送がかなりあつて、番組が飛びちゃうから組合だって何も言えない。

今野 お前がやれ!

入社して4〜5年だった。TBSのネットワーク全社がドラマやドキュメンタリーなどの企画を大々的に募集した。僕が書いた企画が3本か4本優秀企画として認められ、社内で張り出された。編成部のお偉方が考えたことで、社内からのいい企画があれば、なるべくそれを制作しようという考えだった。

テレビ局が自主制作して、出来上がった番組をスポンサーに買って貰おう、という試みである。

当選した企画は『太陽をさがせ』という、非行少年事件を扱う家庭裁判所の七人の調査官を主役に描くシリーズドラマだった。七人というのは、当時ヒットしていた『七人の刑事』にあやかっただけのもの。僕がADを務め、演出にUが指名された。首席調査官に佐田啓二を口説いて、OKを貰う。1時間ドラマを5本の制作を脚本家の大津皓一とともに、さあ、はじめようとなって、演出のU氏が降りてしまう。「いつ、放送されるかわからない番組はやる気がしない」と。

困り果てた部長は、「今野、お前がやれ!」付けられたADは学生アルバイトだった一人。人生って本当に分からない。東京オリピックの一九六四年、テレビ局はまだ過激な時代だった。(続く)

(24年5月1日取材 文責・菅野)

*** **

「放送人グランプリ」贈賞は 会員必須の活動です。

皆さんの積極的参加を願います。

事業委員長/グランプリ・贈賞委員長

渡辺 祐史

知る人ぞ知る「放送人グランプリ」も注目度は今一つ、会員からの投票、贈賞式への参加も少なく、残念です。

贈賞委員会では、この夏、数回に亘り議論し、これからのグランプリ贈賞のあり方について改善案をまとめ、会員の皆さんがこぞって参加できるようなものにしたいと考えました。以下、概要を記します。

○「放送人グランプリ」は「放送人の会の創設時から始まった、最も放送人の会らしい事業です。」

○その意味で、**グランプリ贈賞は、「放送人の会の活動の根幹として位置づけられるのではないのでしょうか。」**

○また、そのキャッチコピーは、**「放送人の放送人による放送人のための賞。」**つまり、放送人グランプリの選考基準は、作品性だけでなく、**会員それぞれが持つ「放送人の会の理念に叶うかどうかです。」**

○そう考えると、会員の日常の基本活動は、自分たちが理想とする放送界や番組とは何だろうと考える語り合、**会員同士の情報交換活動だと考えます。**

皆さんは、今回の会報で「消夏座談会」の記事を読み、今年の番組情報をつかみ、今後の会員の情報交換を通じ、投票を行い、選考作業に関わり、贈賞式やパーティーに参加し、受賞者と喜びを分かち合うまでの活動を通じて、常に「放送人とは」「放送人の会とは」を考え続けることになり。理想的に言えば、そんな活動が、事業活性化、新事業開発につながり、会の強靱化、会員意識の向上にもつながると思います。

以上の共通認識のもと、「グランプリ2022

5以降」に向けて、以下のように、具体的な改善検討案を示します。

①**日常活動において、会員への「放送人グランプリ」は「最も「放送人の会らしい」活動」としての積極的情宣とキャッチボールを強化する。**

*会報や事務局からの通信を通じ、改めて贈賞の意図を明確に伝え、通年に亘って会員との間の意思疎通を図り、意識アップをお願いします

②**「グランプリ」選考作業を深化させる。**

*地域作品情報や制作会社情報（特に映像資料）を積極的に収集できる、関係を構築し、委員が試写できる環境を作る。

(地方の会員・民放送・放送批評懇談会・ATP等と連携して、資料資料、Youtube情報の収集等をおこなう)

*具体的には、贈賞委員が役割を分担して行う。

*会員投票・推薦作品の選抜(第一次選考会議・委員による個人的試写等をへて第二次選考会議を行うなど、選考過程を分け、選考作業を厳密化するとともに、選考会議に作品を推す一般会員も参加できるような融通性も持たせます。

③**「贈賞式」をさらに魅力的にする。**

*ここ数年、受賞作品の映像を会場で映写するなどの工夫を加えてきたが、これからも贈賞式に改善を加える。(贈賞式の模様を撮影し、Youtubeに上げようとの提案もあった、加えて検討したいのは、「放送人グランプリ」は最も「放送人の会らしい」

事業であり、会員が「放送人とは何か」を意識する事業であるとの認識から、贈賞式に加え「受賞者によるシンポジウム」を

セットして行うことも考える。

*この場合、総会、贈賞式、受賞パーティーの一日3セットの従来の形からどう展開させるか、今後の課題だが、2日間の事業とするか、贈賞式時期の変更に合わせ、総会を切り離す考えもあるかもしれない。

「グランプリ」を他の贈賞(EX:ギョラクシー賞・放送文化基金賞)と差別化した方がよいとの考えもあり、今後の検討課題です。

④**以上の「グランプリ」贈賞の改善策を通じ、資金・パワー不足の中の「会の活動のありよう」を変える。**

*コロナ禍の後遺症もあり、正直に申して、事業活動は、一部を除き低迷しているといわざるを得ません。また活動も、一部の理事によつてのみ行われているかのようにもみえます。

今後は、新規活動を基にした新しい委員会を作り、将来的には、理想論ではありますが、「会員は少なくとも一つの委員会に所属する」との原則を定め、会員全員が会の活動を楽しみ、会員であることの恩恵を享受できるようにしたいと考えています。

*「受賞者によるシンポジウム」以外にも、タイムリーな時期に受賞者が参加する事業・イベントを企画実施する(EX:「名作の舞台裏や「放送人の世界」(的なもの)」「ドキュメンタリーワールド」(的なもの)を増やします。

*以上のようなことを通じ、放送人の会の事業や会員活動の活性化を期待するとともに、日常的にも、会員間の情報交換(交歓?)

の機会を増やすなどして、「活動する新しい人材」を獲得してゆくつもりです。

皆さん、ご協力、よろしくお願いします。

*** **

会費納入の期限について

総務委員長 小川 和之

日頃から放送人の会へご理解とご協力有難うございます。

さて会員の皆様にお納め頂いています放送人の会の会費についてですが、これまで特段の締切日が設けられていませんでしたが、今年度から納入期限が6月末までということになりました。

ご承知の通り、放送人の会は、会員の皆様からの会費（特別会員の賛助金含む）で運営されています。日々、可能な限りの節約に努めていますが、年度当初に事業が実施される場合、早期の支払いが必要となり一時的に予算が不足するという状況が発生、手持ちの繰越金で対応していましたが、その繰越金も底をついてきている状況です。

これまでですと、会費がいつ納入されるかの目途が立たず経費のやりくりに苦慮する場面も多々あり、そのため理事会に諮って、**6月末の納入をお願いすること**で承認を得た次第です。

今年度は、締切日を設けた初年度ということもあり、会費納入のお願い文書にその旨書き添えましたが、締切日を2か月過ぎた8月末の段階で納入率は82%、お気づきにならない方もいらしたのではないかと推察し、再度納入のお願い文を差し上げましたが、現在

も21名の方からの会費が未納の状態となっています。

思えば、私が総務委員長を引き継いだ段階で、長期にわたるに未納入の方が10数名、中には8年間も未納状態が続いていた方もおられました。そこで昨年度から今年度にかけて、理事の皆様にもご協力頂いて、未納の会員おひとりおひとりに何度も直接電話などで連絡し、何とか解決の道を開くことができました。今回このままの状態が続けば、また再び長期滞納を生むことになる懸念も出て参ります。元より定款によれば、会費の支払義務については

【(一)会費資格の喪失 正会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する(一)第7条の支払義務を2年間履行しなかつたとき。】

と規定されていますが、厳格にルールを適用することは会員相互の親睦を旨とするこの会の性格上馴染みません。

いずれにしても、会費未納の会員に置かれましては事情をお汲み取りの上、これからでも結構ですのでお支払い頂きたくお願い申し上げます。

また何らかの事情で納入が遅れるという方は、その旨事務局にお申し出て頂ければ納入頂けるまでお待ちしますので遠慮なくご相談ください。

なお、年度当初の総会のご参加の際にお支払い頂く方も多くいらっしゃいます。振り込み手数料も必要ありませんので、総会の際のお支払いをご活用くださいますよう、お願い申し上げます。



会員短評 (入稿)

〜24年の長い夏〜

日本橋三越で「さだまさし」展を観る

甲 秋夫

日本橋三越で7月10日から開催された「出会い、笑顔、旅のまにまに〜さだまさし展」を観に出かけた。

昨年デビュー50周年を迎え、今年、新たな一歩を踏み出した彼の軌跡を三越の全館挙げての展示会に、さだファンが大挙して集まっていた。

「耐えた花ほど美しい」「毎日、人生はここからだと思っている」等、彼独特の筆跡で書かれた色紙がパネル展示される他、彼の愛用ギター等の展示物で会場は埋まっていた。

さだまさし氏(以下まつさし)との出会いは今から丁度半世紀前の一九七四年に遡る。彼が吉田正美氏と結成したフォークデュオのグループが長崎でデビューし、第2弾の「精霊流し」がヒットして彼らが上京した頃だった。文化放送の深夜放送「セイ・ヤング」火曜日の谷村新司が都合の悪い日があり、まつさんをピンチヒッターに起用した。その結果、「落ち研」出身のまつさんのトークが面白いと評判になり、レギュラーに即決になった。番組は好評で二年間続いたが、コンサートツアーが超多忙になり、降板せざるを得なくなった。

その後、一九八一年に文化放送は編成の方針で「セイ・ヤング」を終了させ、新番組「ミッド」をスタートすることにした。そのことを彼が聞き及び『セイ・ヤング』の灯を消すな！自分が生放送で続けたい」と文化放送の

社長に直談判した。その結果、「さだまさしのセイ・ヤング」が土曜の夜に新たに登場することになった。そして、その担当Dが私にお鉢が回って来たのだった。私は毎週土曜日に彼のコンサート会場の都市にあるラジオ局に出かけて生放送のDを務めるという羽目に陥った。しかし、新番組にもかかわらず彼の熱いトークの結果、聴取率は絶好調だった。当時、注目したのは早大を始め、各大学に「さだまさし研究会」(通称「さだ研」)なるサークルが出来たことだった。あれから40年以上の時が過ぎ、今回の「さだまさし展」を観て驚いたのがこの

「さだ研」のメンバー数人が書いた単行本「さだまさし解体新書」(大和書房刊)を目にした時である。私は早速1冊購入して読むことにしたのだが、「さだ研」は今や大学にとどまらず、企業の職場や友人同士など、全国に無数の「さだ研」が存在し、活発に活動していたことである。それにしてもシンガーソングライターであり小説家、タレント、慈善事業家等、多くの顔を持つ彼の存在に興味は尽きない。

*** **

尾張の落語と講談

番組ディレクター 秋田和典

名古屋の大須演芸場で、7月に「尾張落語尾張講談を聴く会」が開かれた。地元を拠点に活動している落語家と講談師が集まり、名古屋を舞台にした「尾張落語」や名古屋弁などを取り入れた演目を披露して好評だった。この会の参加メンバーの一人落語家の登龍亭獅竜さんが、昨年舞台が尾張という創作の会を開いたところ好評だったので定期開催が実現したという。獅竜さんはこれまでに地元を舞台にした落語を三十席ほど作ったそうだ。江戸落

語と上方落語に対して「尾張落語」を定着させたいと熱意を語る。講談師の旭堂麟林さんは棋士藤井聡太七冠の故郷瀬戸市の広報大使を務める縁もあり、今「藤井聡太物語」に取り組んでいる。棋士藤井聡太さんの話題や、師匠とのエピソード、応援する地元の人たちの盛り上がりぶりなどを織り込んだ講談を披露している。

かつて初代雷門福助さんは関東大震災の後、名古屋に移り住み、大須演芸場で高座を務めた。一九八〇年代の半ば、「落語界のシーラカンス」として注目され東京の寄席にも出演したことがある。名古屋で生まれたものが東京や大阪の話芸の世界でも評価されれば楽しいことである。

*** **

夫か、主人か、パートナーか 加藤滋紀

結婚している女性に問います。あなたは配偶者を友人に紹介するとき、「夫です」と言いますか。それとも「主人です」と紹介しますか。「つれあい」はちよつと古風ですね。現代風に「パートナー」という表現はどうでしょうか。

男性にも問います。あなたが配偶者を友人に紹介するとき「妻です」と言いますか。それとも「家内」「女房」「カミさん」ですか。まさか「愚妻」なんて失敬な言葉は使わないでしょうね。

私がおんな問題に心を悩ませるのには切っ掛けがありました。先日、NHKの『のど自慢』を見ていたら、司会の女性アナウンサーが歌い終えた女性の出場者に、「あなたの夫は…」と話しかけたのです。別に何の問題も

ないごくりふれた会話ですが、私は妙に引っ掛かってしまいました。

私は長年NHKに勤め、家庭問題も取材しましたが、出演者や取材協力者に配偶者のことを尋ねるとき、多少の敬意を込めて「主人」や「奥さん」と表現しました。親しい友人や隣人との日常会話でも同様で、「夫」や「妻」は使いづらい言葉でした。時代が進んで、「夫婦は対等で主従の関係ではない。従って、夫を主人とは呼ばない」という女性が増えてきたことは承知していましたが、私は自分の言葉遣いを変えず、今日まで引きずってきました。しかし今、若いアナウンサーが「あなたの夫は…」と、ごく自然にさらりと話しかけるのを見て、あゝ時代は変わったのだと、妙に新鮮な感動を覚えました。

最後に蛇足です。私のことを「主人」と言っていた妻が、いつの間にか「夫」と言うようになりました。私も「妻」と言うよう心掛けていますが、口癖になっている「家内」がすぐに出てきます。日本語は本当に難しい。

*** **

二〇二四年夏、清里フィールド バレエ、パリオリンピック、上高地、

千葉 邦彦

二〇二四年七月26日、家内と私は山梨県・清里にいた。念願だった「清里フィールドバレエ」を鑑賞するためである。毎年夏にこの地で野外バレエが開催されていることは、2年前の7月に小淵沢で乗ったタクシーの女性ドライバーから聞いて知った。映像で見たのは、その年の9月に放送された『新日本風土記 海線』(NHKBSPレミアム)が最初であった。今年の夏、その再放送を家内と見て、「すぐに行こう!」と思いついたのだ。

「清里フィールドバレエ」は、一九九〇年に始まり、今年が第35回となる。主催はバレエシヤンブルウエスト(総監督:今村博明、芸術監督:川口ゆり子、共催は萌木の村。バレエの舞台は萌木の村の特設野外劇場である。村長の松木上次さんは35年間にわたって実行委員長をつとめていて、『新日本風土記』にも登場した。実際にお話したが、熱意溢れる素晴らしい人である。

高原の野外公演であるから、ときに雨に祟られる。毎夏約10回の公演期間中、上演中断や中止になることもある。初日のこの日も雨が開演前に弱く、開演後にはやや強く降ったため、約1時間の中断が入った。雨が上がり、美しい花火とともに再開した後は、プログラムを一部削るなど工夫しての上演となった。今宵の演目はチャイコフスキーの3大バレエのひとつである「白鳥の湖」。キャストは日によって異なり、この日は、オデット(オデュール)に小野絢子、ジークフリート王子に福岡雄大。熱烈なファンが多いプリンシパルたちである。彼ら二人はもちろん、全てのダンサーのパフォーマンスが賞賛に値するものであった。

それを見つめる観客千人の夢みるような思いが会場を包み込む。何て素晴らしい夜!そして、ためらわずに書いてしまおう。この夜、私にとつて何よりも美しかったのは、舞台に見入る家内の純粹な横顔だった。この人と一緒に生きている幸せな気持ちが入り込んで来た。来年も再来年も、その先もずっと二人でここに戻って来たいと思った。

終演後、清里駅に徒歩で向かった。来場者の多くは清里地域に泊まっているか、車で家路につくのだろう。清里駅を目指す人影はほとんど見えない。その駅は、地域再興の動きが活発化しているのと裏腹に、今年3月から無人駅になった。駅の待合室で野辺山・小諸方面

への下り最終電車を待つのは、私たちの他に、それぞれ単独行動の男性一人だけ。そのうちのお一人、バレエ通の方から新国立劇場の秋冬のバレエ公演の話を知っていると、不意にスピーカーからアナウンスが流れ、「昨日の大雨のため、下り最終電車は運休となります。次のお知らせをお待ちください」を繰り返した。ところが、いくら待っても次の知らせがない。漆黒のなかに取り残され、「銀河鉄道の夜」のような雰囲気にも包まれていったこの夜の、そのあとの物語は別の機会にとつておこう。

不思議な時間を経て辿り着いた野辺山のホテルで、『パリオリンピック二〇二四 開会式』(NHK総合)を観た。「さすが芸術の国フランス!」と思わせる見事な演出だと私は思った。とりわけ、大病から復活したセリーヌ・デイオンの「愛の讃歌」の熱唱は感動的だった。エッフェル塔から放たれた花火と「清里フィールドバレエ」の空を彩った花火で、この夜、清里とパリが繋がっていると感じた。パリオリンピックと「愛の讃歌」のことは稿を改めた。素材は山ほどある。

清里から帰った翌週の8月1日、私たち夫婦は、今度は長野県上高地にいた。上高地は長く憧れていた場所である。『新日本風土記 上高地』『美の壺スペシャル 日本の避暑地』(NHKBSPレミアム)、『新美の巨人たち 初夏の旅:上高地帝国ホテル×内田有紀』(テレビ東京) はじめ数多くの番組を教材に調べを重ねて訪れた。そこは想像を超えた別天地、天国のような場所だった。私は幼少時に、長野県生まれの母と叔母に連れられて県内各地を旅したが、それらどの土地と比べても、上高地は別格であると感じた。来年も、その先もずっと上高地にも来たい。今回足を伸ばせなかった場所を踏破して、上高地を先駆けてからじっくり語ろうと思う。かくして、二〇二四年

夏は、あらためて書きたいことだらけなのであった。

さて、この原稿を提出する今日9月5日午後、私が幹事をしている「美楽研究会」（略称：「美楽会」）の研究会を開く。今回は港区六本木の泉屋博古館東京の特別展『昭和モダン、モザイクのいろどり 板谷梅樹の世界』を担当学芸員に解説してもらいながら鑑賞し、館内のカフェに場所を移して意見交換をする。板谷梅樹（モザイク作家）は、美楽会のメンバーである板谷駿一さん（元NHK専務理事・放送総局長、元当会理事）の父上で、陶芸家・板谷波山の五男である。板谷さんから、梅樹や波山の創作にまつわるお話を伺うのも楽しみである。こうして、二〇二四年も芸術の秋が始まった。

台風の中で、東京人として

地方局情報を書いた

前川 英樹

台風10号接近中と知りつつ二泊四日（八月二七、八、九、三十）の一人旅に出た。なんでこんな時に、ということにはいろいろな理由が重なっているのだが、それを書くことと書くし行ってみてどうだったかということを書くことさらに長くなる。ここでは、放送人としてという少し勿体をつけることにもなるが、二三それ風の感想を書いておこう。

台風はどこまで来たのかどっちに向かうのか、この辺りはどういふ状況なのか、帰りの交通機関はどうか、などなど。主に地上波でフォローした。思うに、災害情報はやはりNHKだと多くの人は言うだろうけど、地元民放局の報道もなかなか興味深かった。そもそも民間放送とは「地方局」であることに存在理由があ

るのであり、制度的にもそのような主旨で構成されている。ネットワークは後から成立したものだ。今回、関西地区の局は経営規模からいっても典型的なローカル局ではなく、東京キー局ほどの規模ではないにしても相応の取材力がある。中京局もその次の立ち位置だ。

敬愛すべきある地方局のキーパーソンは「災害時ほど地元民放がよく見られるのですよ」と言っていた。地方民放局は、災害時にその存在理由を問われるというのは「不幸」といふべきであろうが、しかしそれは放送メディアのあるべき姿であるともいえる。「放送人グランプリ」で地方局制作の番組が評価されるのは嬉しいしメールを送りたいが、厳しい制作環境の中で辛うじて年に一度の機会に必死に作る番組も、非常災害時に地元生活者に不可欠な情報を提供し続けるという民放の意図を問いただすということと背中合わせなのだ。なあ、と旅先で思ったのだった。

東京局の放送人は、地方民放が何故存在しどのように機能しているかということを書きながら考えると良いと思う。

拙作新・講談がラジオで放送

木村 成忠

私が台本を書いた新・講談がラジオ番組として放送された。『若宮丸漂流物語』ふるさとなお遠く』である。仕事として番組制作から完全に離れたのが、東日本大震災があった二〇一一年3月の月末だから13年経つての台本執筆である。放送が3月30日、好評だったのか5月18日には再放送された。

文化元年（一八〇四）ロシア船ナジェジダ号が長崎に来航した。この船には4人の日本

人漂流民が乗っていた。4人は11年前仙台領石巻湊を出港した後、嵐に遭い行方不明になり、そのまま16人全員死亡したものと思われていた千石船若宮丸の乗組員だった。ロシア船乗員81人に対し、日本側は長崎周辺の各藩から約2万5千人の過剰とも見える警備兵を動員し陣を構える。ロシア側は日本との通商を求め、漂流民の引き渡しも申し出たが幕府は両方とも拒絶、長崎港から即刻立ち去ることを申し伝える…。帰国の4人は初めて世界一周した日本人でもあった…。

新・講談はこんなシーンから始まる。これは歴史に残る大事件なのだが、なぜか地元でも知る人はあまりいない。宮城県石巻出身の私としてはこの地球規模の郷土史をもっと広く知ってもらいたいという願いを抱いていた。

この新・講談の尺は50分。読んでくれたのは元東北放送の藤沢智子アナウンサー。私は東北放送在職中一緒に仕事をした後輩である。私の拙い台本を張り扇の調子に乗せ上手く読んでくれた。

この若宮丸漂流民を調査、研究、顕彰する市民グループがある。「石巻若宮丸漂流民の会」は結成されて23年目、会員は全国に70余人。悩みは会員減。周知活動、会員募集活動を行っているが目に見える成果はあがっていない。そこで考えたのが「講談」の上演。落語・講談は小学時代から今まで続く私の趣味。台本はラジオの制作時代「講談もときどき」を何本か書いたことがある。初上演は去年漂流民の故郷のひとつ東松島市で行った。今年も漂流民帰国220年の年に当たるので、「知られざる仙台領の郷土史を放送してみませんか」と働きかけ実現した。

放送後、6月の番組審議会でも取り上げられ「知らない話だった。貴重で有意義な番組」「講談を用いて、しつかりエンターテインメ

ントとして成立させた」などの評をもらった。これからも機会があれば上演活動を続けて行きたい。（仙台市在住）

*** **

人間たちへの執着と執着

渡辺 紘史

9月9日、パリパラリンピックが閉幕した。大戦後の傷痍軍人の社会復帰を目指して企画されたというパラリンピック。テレビに映し出されるアスリートたちひとり一人の顔や姿は、私たちに、人間の多様性と誰しもが個性を發揮し活躍できる共生社会への強い思いを訴えている。ウクライナ市民やガザの子供や母親など戦争被害者の姿と重ね合わせてみる今年の夏は、なおさら強く伝わるのだ。

そうした夏の間、気になっていた新聞記事がある。7月19日付朝日新聞社会面、見出しは「ジョッキンクである」。

「都心走るJTR車内 座席で男性死亡」気がつかれず12時間？ 終着駅まで計652キロ「妻もつと早ければ」

記事によれば、5月11日（土）6時57分、逗子駅発湘南新宿ライン宇都宮行の列車に、8時2分渋谷駅から男性（50歳の会社員）が乗車、列車は9時半頃小山駅を通過（男性は小山駅付近で友達と会う約束をしていた）その後宇都宮駅到着。

列車はそのまま10時6分発、上野東京ラインとして平塚駅へ。その後列車は2度折り返し、計3往復して午後7時35分、終着駅小田原に到着。

その5分後、車内点検の駅員が男性を発見、警察に通報すると同時にその場で死亡が確認された。警察は事件性なしと判断、医師作成の

死体検案書では、この日午前中に心筋梗塞で死亡したとされた。

つまり「車内で亡くなった男性が12時間の間乗降する客の誰にも気づかれずいた」のだ。

取材に対しJRは、この日、車内に設置されたSOSボタン（非常通報装置）は、男性に関してボタンを押されることはなく、通常、折り返しの際に清掃を行うのはグリーン車だけで、座席に乘客がいても、明らかに様子のおかしい場合を除き、声をかけることはないとし、この件に関し、見解は差し控えていただくと回答したという。

さらに記事は、記者4人が、6月に、同じ時刻に乘客としてこの列車に乗り、車内を観察したと伝え、ほぼ満席の乗客の大半は、目をつぶっていたり、スマートフォンを見ていたりして、体調の悪そうな人がいても誰も声をかけなかったこと、さらに記者自身も男性からアルコールのにおいを感じしたが、酔っているのかと思い、声をかけなかったと記す。そして記事の最後は、男性の妻の「かけがない夫がもう少し早く発見されていたら命は救われていたかもしれない」という言葉を、コメントなしで紹介して終わる。

私は、ここ数年、通院の都合で実家のある宇都宮に居留することが多く、週一、二回、この路線で宇都宮と東京や自宅のある川口の間を往復している。奇しくも、この5月11日（この路線を利用しており、亡くなった男性や乗り合わせた乗客双方について、他人ごとではなく、自分に引き付けて記事を読んだ。しかしこの記事、そうした私の実感からすると、何か違和感が残るのだ。

記事のように、気づいた人はいなかったと簡単に片づけてしまっているのか、である。

まず、車両と乗客との関係だ。男性が発見されたのは2人掛けの座席だという。2人掛け座席は、所謂ボックス席のある車両だけにあり、湘南・東京ラインであれば、通常、列車の両端にある1、2号車か14、15号車に限られ、全て扉の両側にある。

また、首都圏を縦断するこの路線は、土曜日であっても常に満席状態であり、車窓の景色を楽しむボックス型車両は、家族友人同士の乗車が多い休日は混み合っている。つまり、居合せた乗客は半端なく多く、人と人との距離は極めて近い。

また2人掛けの座席は、停車時には扉越しでもよく見える。折り返し駅では、閉まった扉の中に一人ボツンと座っていたはずの男性は、発車前に自分で扉を開けて乗車する客には、極めて異常に映るはずだ。

また記事は、乗客の大半がスマホを見ているか、眼を閉じていると書くが、乗客は多種多様、これも先日の体験だが、私の隣で吊革に手をかけ、熱心にスマホを操作していた中年の婦人が、前の席の乗客が立つと同時に私の脚を蹴とはすように素早くその席に座った。スマホを見ていても、視線を油断なく動かしている人もいるのだ。

医学的生理的考察も必要だ。死後硬直があっても同じ形で座つていられるのか、失禁や吐瀉物はなかったのか、この5月11日は金沢では30度を越え、関東でも25度以上を記録した夏日であった。記者の体験でアルコールのにおいを感じたとあるが、この時、誰も異臭に気づかなかつたのか等々、疑問だらけだ。満席の車両であっても、座席に飲料水などの汚れがあった場合には、誰も座らず、何時までも空席のままであったような例を経験した方も多くおられよう。

記事を子細に読めば、取材の事情がおぼろげに見える。JRは、非常ボタンは「この男性に」関してはなかったというが、別のことであればベルが鳴ったともとれる。誰かは、様子のおかしい乗客の存在に気づき通知したが、内容の伝え方、伝わり方の食い違いがあり、結果的に、JR当局の発見措置が取られなかったということもありうる。JRの「見解は差し控える」に至る経緯についても詳細はない。

この件にはらむ問題は、現代人の無関心以外に、JRという公共的事業体の顧客安全管理の問題もあるはずだが、記事では触れられていない。

以上から、誰かは気づいたが、その誰も異常を伝える行動はなかったか、あるいは誰かが何等かの形で伝えたが、結果的に救出措置が取られなかったとみるのが妥当だろう。

因みに、この「JR車内死亡」の件は、2か月余りたったこの記事で初めて報道された。つまり、この記事は、事件事故を後になって深掘りし、社会や世相を読み解く解説記事である。テレビでいえば、ニュースではなく、調査報道番組である。首都圏社会部4人の署名記事は、結果的に乗客への裏取りはできず、通報はなかったとするJRの言い分のまま、顔のない乗客全員のヘイトに対する無関心さが、世智辛くも世の無常を生んでいると、これまでに何度も取り上げられてきた乗客の無関心を指摘するだけの記事となつてしまった。

記事が、当事者たちの生の声に迫れば、「誰も気づかなかつた」の奥に潜む真実「見て見ぬふり」や「見なかつた」ことにする」につながる現代日本人の心の深奥に迫ることができたかもしれない、読者は、もう少し、自分に引き付け、置き換え、より心に刺さる記事になつてははらずである。

なぜ当事者たちの声を拾えなかったのか。いくつか理由はあろう、ひとつは、取材のスタートが遅かったこと。それには、公表したくないJRの初めからの意向があつたかもしれない。その後のJRの対応からもそれは推測される。またJRから、個人情報保護の楯に、保持する乗客（顧客）情報の提供を拒否されたのかもしれない。

昨今、事件事故災害報道でも一般人の情報では、ほとんど実名の報道はなく、例えば、「60代の男性が取り残され、死亡が確認された」などとする報道が多い。

今、取材する側が、個人情報保護やSNSにおける個人への攻撃等に配慮し、一般人個人に対する取材を手控える傾向があることも指摘されている。

深読みすれば、朝日新聞は、初めから個人の証言は要らない、話を、即一般化・単純化して、今の世に存在する陥穽を指摘し、こうした世のあり方を考えてもらえればよいと、むしろ割り切つて記事にしたとも思える。

神は細部に宿る」という。新聞記事であってもテレビ番組であっても、私は常々、個々人間のディテールにフォーカスしたものをこそ、事の本質を言い当てるのだと思つている。ディテールなしに、即、問題を一般化して、人間とは、社会とはなんて、へしたり顔をしてはならないと思ふのだが――。

世の中で生きるひとり一人の人間たちへの執着と関心を持ち続けたい――。現代人の病弊（ヘイト）に対する無関心を指摘された乗客と同様、メディアの取材者自身が同じ陥穽に嵌つてしまっているのか、この夏、こんなことを考えた。

九十二年ぶりの山陰・決勝戦

市川 重樹

106 回目を迎えた今年の夏の全国高校野球選手権大会で、早稲田実業など強豪校を破ってベスト8入りした島根代表の県立大社高校の躍進が甲子園の話題となりました。私もテレビにかじりつきで声援を送りました。喜びに沸く大社高ナインの姿を見て、16年前の日本海テレビの報道部時代に企画した、ある親善交流試合を思い出しました。

夏の全国高校野球選手権大会は一九一五年（大正4）の8月18日、旧鳥取中（鳥取西高）と旧広島中（広島国泰寺高）の対戦で開幕しました。当時の名称は、「第1回全国中等学校優勝野球大会」。会場は大阪府・豊中村の豊中グラウンドで、全国から10校の代表チームが出場し早稲田実業はその内の1校でした。

その記念すべき開幕試合で第一球を投げたのが山陰代表として出場した鳥取中の鹿田一郎投手でした。夏の全国高校野球選手権は鹿田投手の一球から歴史が始まったのです。

鳥取中はどのチームと対戦して全国大会の出場権を獲得したのだろうか、そんな疑問からリサーチが始まりました。そこで鳥取市内にある鳥取西高と島根県大社町の大社高校の野球部史を読むことから始めました。

決勝戦は鳥取県の鳥取中（鳥取西）対島根県の杵築中（大社）でした。ところが代表決定戦が行われたのは地元山陰ではなく大阪の豊中グラウンドだったのです。しかも試合は全国大会開幕3日前の8月15日でした。山陰の代表決定戦をなぜ大阪まで出かけて試合をしながらはならなかったのか、「その理由と背景を

探りたい……」そう思ったのが二〇〇七年秋のことでした。

鳥取西の開校は明治6年、大社高校は明治31年、両校とも「文武両道」を教育方針に掲げ特に鳥取西は全国でも最も古い学校の一つです。その両校の野球部史などからある事実が分かりました。それは山陰代表決定戦を行うに当たって、その2年前に米子市で行われた米子中と松江中との練習試合中に起きた応援団によるトラブルが原因でした。この騒動がきっかけで初の全国大会への山陰代表を決める決勝戦を地元山陰で行うことが出来なかったのです。

そこで苦肉の策として全国大会と同じ会場で決定戦が行われました。

山陰と京阪神を結ぶ山陰線が開通したのは4年前の明治末年のことで山陰と大阪が15時間で結ばれたのです。鉄道網の整備で出雲大社への参拝客は急激に増えたそうです。

試合は両投手の投げ合いで白熱した展開になりましたが鳥取中が5対2で勝利し全国大会出場の手になりました。試合後、杵築中の千家剛鷹主将が鳥取中の鹿田一郎投手に、「今までは敵同士だったがこれからは同じ山陰の味方、奮闘してくれたまえ」とエールを送ったことが『野球界の美談』として当時の大阪朝日新聞が取り上げています。山陰の高校野球史は杵築中の千家剛鷹投手の投げた一球からその歴史が始まったのです。

08年、高校球児の祭典夏の甲子園が90回を迎えることになりました。そこである企画を試みることにしました。両校の野球部員に「地元山陰で代表決定戦が出来なかった知られざる山陰の野球史の1ページを振り返ってもらおう」。日本海テレビの呼びかけで両校の交流

会と親善試合が実現したのです。会場は鳥取県岩美町営野球場で、鹿田一郎投手の長男で東京在住の鹿田幸雄さん（76）と千家剛鷹投手のおいで出雲大社教管長の達彦さん（85）が駆けつけてくれました。

08年5月6日午後2時、93年ぶりの復活試合が始まりました。試合は大社高校が6対4で鳥取西高校を破り、大阪・豊中球場での雪辱を果たしました。この復活試合の話題は朝日新聞を初め各全国紙や地元紙が大きく取り上げたこともあって岩美町営野球場には多くの高校野球ファンで埋まりました。それ以降何年か、毎年5月のGW中に鳥取西と大社との交流戦が会場を毎年両県に移して行われたと聞いています。

夏の甲子園大会で記念すべき第一球を投げた鹿田投手は京都大学卒業後、当時の通信省に入り、退官後は日本赤十字社に務めました。昭和27年4月17日、2万人以上が被災した鳥取大火では日本赤十字社の総責任者として救護の先頭に立ったそうです。

一方、千家剛鷹さんは國學院大学へ進み野球部を創設して主将となりました。そして、昭和11年正力松太郎さんがプロ野球を立ち上げようとして大学関係者に協力を求めた会合に出席した一人でした。さらに、その席に一緒にいた慶応と早稲田大学の野球部関係者はいづれも杵築中の卒業生だったのです。

この一連の動きをまとめた、「この一球から歴史は始まった」鳥取中（鳥取西）VS杵築中（大社）は日本海テレビ開局50周年特別番組として08年6月28日に放送（55分）しました。

今年の夏に甲子園を沸かせた大社高ナインにはDVDを送り、波乱に満ちた山陰の高校野球史を知ってもらいたいと思っています。

北海道のドキュメンタリーを

継承しよう

林 健嗣

9月13日、放送人の会あてに、以下のメールを送る。

「先日もお送りしましたが、明日の消夏座談会を欠席させて頂きます。

北海道内で初のNHKを含む現役放送局員たちが集まる、ドキュメンタリー番組の灯を消さないための勉強会が開催されます、OB参加の検討をメンバー会議で語って頂き、放送人の会のメンバーとして、例外的に認めて頂けることになりました。その日程と座談会が重なり、今回は急遽、欠席とします。お許しください。」

ワークシヨップは、6局共同で取り組み、今月から来年7月まで札幌で5回開催される予定です。

ドキュメンタリー番組枠の減少に抗う若い放送局員たちを如何に応援できるか。地域放送局のスタッフの活動をフォローしたいと考えております。

以下は、その報告です。

母国をなぐ

ドキュメンタリーの夜!!

ナナカマドの赤い実が色づいた9月14日（土）。NHKを含む北海道内全放送局の局員有志70名が、「第一回北海道ドキュメンタリーワークシヨップ」の会場・HBC本社会議室に集まった。

局の垣根を越えた全7時間にわたる北海道初のワークシヨップを実現させた仕掛け人は、

番組「ヤジと民主主義」を制作したHBC報道部デスクの山崎裕侍くんを中心とした各局の報道部長やUHBのドキュメンタリスト後藤一也くん、H.T.Bの沼田博光くんら、北海道を代表するベテラン制作者たちだ。放送文化基金からの助成を受けての開催だが、機運は一昨年来からの各局が、相次いで挑戦したドキュメンタリー番組の映画化が裏にある、ドキュメンタリー枠の存続と確保への危機感共有がベースにあった。

「稼げない」ドキュメンタリー枠が、隅に追いやられてきた地方局の現状は、若い制作者の育成の機会を知らず知らず奪っている。

第一回ワークショップのゲストは、大阪・毎日放送の齊加尚代ディレクター。映画『教育と愛国』を全員で視聴後、二〇一七年のテレビ版から映画化への経緯を紹介、残念ながら地上波放送では、難があると言わざるを得ない《右に傾斜しつづける教科書検定の日本の現状》を露わにする映画の内容に対して、配慮するか否かの葛藤など社会派ドキュメンタリーがおかれているその現状と可能性に触れた。

参加してみ、刺激を受けたのは、若い女性ディレクターの参加者が半数近くいたことだ。ゲストが齊加さんだったということもあつたのだろうか。女性達の静かな熱のようなものを感じ新鮮で頼もしくもあつた。

なにより、仕掛け人のHBC山崎くんの進行為が考えられていて、感心させられた。

入社1年たらずのZ世代の女性ディレクターの横に座わり、進行の軸を彼女に渡して「主役はあなたたちZ世代のクリエイターである」と一言も言わず、「一緒に」という姿勢を貫きながら、ゲストと参加者の間を繋いだことだ。

世代を超えて、思考スタイルも語彙も違うが、通底している「危機感はある」と

いう大人の進行は、開始早々「生温くスピード感のないもの」に感じていたのだが、後半に進むに従って、局の垣根を越えて連携する自らの仕事を学び直そうという若い制作者の真摯な姿勢が前に出ていくのを感じ、実に新鮮な熱気のようなものを感じられた。

マッチョな現場のデスクや部長たちの時代に生きた自らの配慮の無さで、マッチョな先輩ばかりを育ててきたかもしれない反省させられた。

ワークショップの内容は、企画から撮影現場へ、取材相手との距離感、インタビュー論、演出（*演出の範囲、構成とナレーション）、モザイクとリスク、そしてドキュメンタリーに「中立」「両論併記」は必要か、など具体的な例をMBS齊加Dの体験を柱に、丁寧に交わされるなか、現場はかつての時代より、はるかに厳しい現実のなかにあることを思い知らされた。

印象に残った若い制作者の率直な言葉をいくつか記してこの稿を締めくくりにする。

「権力を取材対象にするとネットによる誹謗中傷が取材者個人に向かってくるのをどう受け止めればいいのか」に対して、「劣化した政治の前では、現場の先輩や上司に守ってもらおうと信じてやることだ」「ネトウヨはイナゴの大量のように次のターゲットに向かって、いずれ移動していく」と。

個人名を出されて誹謗中傷される、ネット時代のなかで記者やディレクターが想像以上に、組織はもろろん、取材者個人にも厳しい環境にあることを確認した。

「稼げない」と社内ですらにされ続けるドキュメンタリーをどう認めさせればいいのか？ 齊加D「それでもとにかく作り続けることだ」。

「理想を語らない学校が学校ではないように、

理想を語らないメディアはメディアではない。《教育と愛国》の制作者らしい締めだった。

第二回ワークショップは、12月森達也氏を招きUHBで行われる。

*** **

PACHINKO植民地

菅野高至

クーラー掛けっぱなしの部屋で、CO2排出に貢献するだけの実り無い猛暑を、何とか生産性あるものにしたと考えて、ふと思いついたのが「パチンコ」だった。評判は、折々目にしてきたが、気軽に手を付けるのは許されないような気がして……と妙な理屈をつけてただ先延ばししただけなのだ。

文庫本2冊と、国際シンポジウムの報告本と、ドラマシリーズ1・全8話がある。猛暑の裏には十分のボリュームである。

最初に、「パチンコ」文庫文庫・上下巻を一気に読む。在米の韓国系作家ミン・ジン・リイが書いた小説（池田真紀子訳）で、一九一〇年代から80年代の在日コリアン一家の波乱に満ちた年代記である。

二〇一七年アメリカで出版され、またたく間にベストセラーになって、30か国以上で翻訳出版された。登場人物が日本語で話す物語がアメリカで100万部を超えるベストセラーになる……その理由を「差別と蔑視に耐える移民の物語」で「誰もが共感できる」典型的な構成になっているからだという。

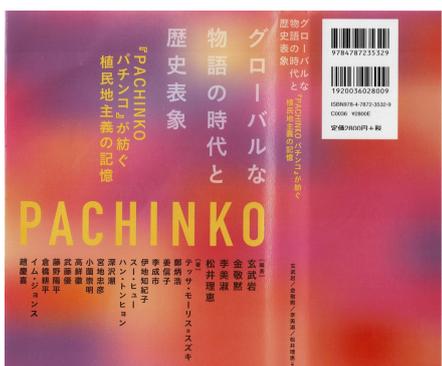
これは、国際シンポジウムの報告本である、玄武岩金敬黙・李美淑・松井理恵…編著「グローバルな物語の時代と歴史年表」PACHINKO

「INKOパチンコ」が紡ぐ植民地主義の記憶」の受け売りです。

玄武岩（ヒョン ムアン）氏は放送人の会、会員です。日韓中では、太麥、お世話になりました。現在は、北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院の教授です。

物語は、日本の韓国併合の一九一〇年から始まる。釜山沖の影島（ヨンド）にキム・ソングジャが生まれ、仲買人のハンスと出会い、恋に落ちて身籠もるが、ハンスには妻子がいた。妊娠を恥じるソングジャに牧師のイサクが手を差し伸べ、2人はイサクの兄が住む大阪の鶴橋に移り、猪飼野でキムチを売って、日本社会の困難や差別と戦いながら生きて行くことになる。

アメリカは先住民以外は、移民とその子孫の国だから、誰もが何世代かたどれば移民の苦労話に行き当たる。だから小説への共感を生み、広く読まれたと解釈されている。



グローバルOTTプレイヤーの競争が激化し、加入者獲得のため巨額を投資してオリジナルコンテンツを手掛けようとしのぎを削るなか、小説「パチンコ」は、ビックテック企業であるアップルの資本によって制作・配信さ

れる。

ドラマ化には、イ・ミンホら韓国人の人気俳優を起用し、アップルテレビが制作に1億ドル（130億円）をかけたと言う。

韓国語、日本語、英語が入り交じる三言語エンタメで、大変面白く良く出来ている。字幕は、英語が白色、日本語が青色、韓国語が黄色。

一世のソングジャは韓国語と日本語を話し、三世のソロモンは英語を含む三言語になる。

原作には無かった関東大震災の朝鮮人虐殺のエピソードも第7話を丸々使って、ソングジャの初恋相手であるハンスの全日譚として大々的に盛り込んでいる。

第5話にソングジャと少女時代を共に過ごしたボクヒ（キム・ヨンオク）が過去を振り返りながら、日本軍慰安婦の経験を暗示して語るシーンがある。最終話（第8話）ではエンディングのあとに、在日コリアン二世女性たちのインタビュー映像が加えられている。

スタッフは韓国系アメリカ人が多い。
制作総指揮・脚本：スー・ヒュー、韓国釜山出身で1歳の時にアメリカに移住。コリアン・アメリカン。／原作：ミン・ジン・リー、韓国ソウル出身で7歳の時にアメリカに移住。コリアン・アメリカン。／共同プロデューサー：テレサ・カン・ロウイ、コリアン・アメリカン。／演出：コゴナダ、①③⑦。子供の頃、韓国から移住。コリアン・アメリカン。／演出：ジヤスティン・チョン、④、アメリカ生まれの3世。

問題は、このドラマが日本のメディアで、なぜ黙殺されているかである。日本では、配信会社としてAppleTV+に馴染みが無いのが大きく影響しているかも知れない。

私が最初に気づいたのは、昨年の4月、南果歩さんが「パチンコ」というテレフイーチャーで在日コリアンの役で出演して、ドラマは評判になって「放送映画賞」をとっているとの記事でした。AppleTV+で配信中心であったが、受信料、各種の配信料で、僕は幾ら払えばいいのか？ 芝居に行くのを2回控えれば、年間の配信料が払えるか…。などと悩んで、あれこれ検索をしていたら、内田樹氏が怒っている。22年7月1日の「[30 Japan]」の配信を長い引用する。

「日本人はこうしてこの時代のドラマを作ろうとしないのか、私には分からない。明治時代に『坂の上の雲』を望見していたみずみずしい青年国家が、しだいに凡庸で陰険な『帝国』に変貌してゆく。その時代に日本人と朝鮮人のあいだで何が起きたのか、それを直視することは、日本人にとって、近代史を理解する上で絶対必要だと思う。でも、戦後79年日本人はこの仕事を放棄してきた」

「隣国のクリエーターたちは自国史のトラウマ的経験をエンターテインメントとして作品化しようと努め、しばしば成功している。（略）ひるがえって…である」

まさに仰る通りです。今、できることは配信中の『PACHINKO』パチンコ』第2部を敬意を表して、正座をして見ることです。
北大の玄武岩さんと「植民地主義の記憶」を語りたいと思っている。同好の士はおりましたか？

*** **

諸般の事情で、発行日が予定より5日遅くなりました。事情とは、1割引の誘惑に抗えなかつたからです。
(編集長より)

恒例 消費座談会 九月十四日(土) 14時45分

2024前期の放送ジャーナリズム

冒頭の「A、B、C、D」は、段落記号のようなもので、特定の発言者を示すものではありません。

☆フジオ国際放送問題

☆フジオ国際放送問題
前菜ぬきで、本日のメインディッシュから参ります。NHKのラジオ国際放送で、中国人スタッフが放送ジャックを起こした事件の対応と課題から。

A この10日発表の「調査報告書」で、経緯のおさらいをしましょう。

8月19日午後1時1分、ラジオ国際放送の中国語ニュース、8項目目(全9項目)の「靖国神社の石柱に落書き 器物損壊事件」として捜査、警視庁で、中国人外部スタッフが原稿に無い、日本批判のアナウンスをする。

外部スタッフはNHKグローバルメディアサービス(以下「Gメディア」と業務委託契約を結んでいる。

外部スタッフが追加した文章の日本語訳。
「落書きには『トイレ』『軍国主義』『死ね』などの抗議の言葉が書かれていた」
原稿と関係なくアナウンスした文章。

「釣り魚島と付属の島は古来から中国の領土です。NHKの歴史修正主義宣伝とプロフェッショナルではない業務に抗議します。」
英語で叫んだフレーズの日本語訳。

「南京大虐殺を忘れるな。慰安婦を忘れるな。」

彼女は戦時の性奴隷だった。731部隊を忘れるな。」

下請けまかせの業務体制

B 問題はNHKの下請けまかせの業務体制にある。中国語ニュースのスタッフはCP以下5名。翻訳とアナウンス2名はGメディアと業務委託契約。ディレクター1名はNHKと委託契約。ほかに、デスク2名。
なおCPは、19日は夏季休暇中だった。

C 外部スタッフは職場で、「翻訳の方針や処遇について不満を漏らす」ことや、「中国当局の反応への不安や懸念」を職員に伝えていた。当日も「NHKの原稿はあいまいで、そのまま翻訳して放送したら、個人に危険が及ぶ」

「NHKはその責任をどう考えるのか」と声を荒げて反発した、という。
D 日頃の業務体制に問題があるのに手を打たない、危機管理の貧しさがニュースの現場にあったのだ。

危機管理の無さ、初動対応の悪さ

A NHKの危機管理の無さ、初動対応の悪さはひどかった。これを、いつメディアに発表するか、午後6時から関連する理事・局長で協議して「総合テレビの最終ニュースで伝えること」を決めた」と報告書にあつて、思わず目が点になる。コトを小さくしたい。いい大人の高給取りが、阿呆かいな、である。

B 「最終ニュース案」を担当理事が上に上げ

ると、「できるだけ早くニュースで伝える、公表の際には記者を対象にブリーフィングをおこなうよう」**会長から指示があった。**

結果、「ニュースウオッチ9」で放送、記者ブリーフィングを国際放送局長ほかで行う。

C だが、事実関係を正しく掌握できずに、発表内容が二転三転、報道資料は19日、22日、25日、28日と、4回も出している。

D 総裁選で忙しい自民党が圧力をかけて、**22日、会長以下幹部が、自民党の「情報通信戦略調査会」に出向いて頭を下げさせられる。**

A 26日、ラジオ国際法の中国語ニュースで、5分間の謝罪番組を放送。総合テレビとR1でも、17時50分より放送。

「日本の公的見解を正しく伝える」と規定した国際番組基準に抵触したと謝罪。

この日、副会長をトップとする「検討体制」を設置し、原因究明と再発防止策、関係役員に責任所在の明確化を行うとした。

B 28日29日の衆・参総務委員会の理事懇談会に、**稲葉会長ら幹部が出席し、経緯と「見解」を説明。「NHK全体として安全保障の観点の意識が欠けていた」とも原因」との見解を加える。**

C どうしてリップサービスをするのかな？**危機管理と業務体制を、きちんと手当てする、**

それで済む話です。**国際放送と言っても、編成権はNHKにある、**この基本を忘れて、公共放送NHKの危機を自ら作り出している。

D 9月10日、NHKは記者会見を開いて、「**調査報告書を公表、**会長以下関連する役員職員の見解を発表した。

翌11日、総務省はラジオ国際放送問題でNHKに対し文書で行政指導をする。

A 私なりの具体策を言うと、「重要な生放送は時差再生する。A Iアナウンスによる放送

をする。報道局との連携を強化する」。次に「現場でのあらたな対応」を作成し、視聴者にも伝える。

B **一番大事なのは編成権の自立です。**介入されやすい民放のためにも、NHKには自律してくれないと困ります。この問題を、勉強会で企画するのもいいですね。

C 非常災害時の緊急体制は、国家権力の傍に放送局が立ちます。編成権の自立はちゃんとして、このように担保するのだと、考え方を整理して置くべきだと思います。

☆夏の戦争特集-テレビ

D オリンピックに人と時間とお金を取られて、終戦ものの放送はないと思ったら、思いのほかしっかりと番組を作ってきた。

A 今年は盛り沢山の夏でしたね。パリオリンピック、相変わらずの国際情勢、国内の酷暑に災害台風、政治は自民党の総裁選挙、立憲民主党の党首選挙などなど。そんな中で、戦争関連番組が埋没するかと思ったら、実際は結構たくさん番組がぎちゃっと出してきた。

B 来年は戦後80年で、今年は少し谷間的な感じなのだが、よくやっていったと思う。

C **SBC信越放送の手塚孝典Dが手掛けた「沈黙の奥底〜河野村分村が問いかけるもの〜」(8月14日)は、**以前NHKでもちょっと取り上げたが、満蒙開拓に村人を送り出した長野県河野村の胡桃澤盛という村長の孫、胡桃澤伸が祖父・盛の膨大な日記をもとに、中国の入植地を訪ねて土地を追われた人に話を聞くなど、世代を超えて加害責任と向き合っている。

D **映像の世紀・バタフライエフェクト**は、始まって3年ですが、ようやくアーカイブ映像

に最新のいろいろなテーマを盛り込んで面白くなっている。

7月8日の「東京 戦後ゼロ年」、同22日の「**オリンピック聖火と戦争**」、8月26日「**太平洋戦争 日米フロバガンダ戦**」は東京ローズが切ない。9月9日「**9.11あの日が変えた私の人生**」は秀逸だった。

C 「**東京、戦後ゼロ年**」は、関東尾津組が隠匿物資をテコに財界に手を伸ばしたか、初めて見る映像も多い。宮城、警視庁、陸軍の隠匿物資、金塊まで出てくる！

D 坂口安吾は「戦争になると人間の真相がはつきりと出て来る」と言った。

A 「**バタフライエフェクト**」はまだまだ、お宝的な映像がありそうだ。スタッフ頑張れ！

B **Nスペ・未解決事件「2.10」「下山事件」**は3月30日の放送ですが、米占領下起こった事件だから戦争特集に組み入れました。第1部のドラマ、第2部のドキュメンタリー、お互いライバル意識が働いて、刺激し合い、共に熱量が高い作品になった。

C このシリーズは評価が高まり定着した感もあるのですが、量産はできないが是非とも続けて欲しい。

D **Nスペ**事務局長の中村直文さんがいい。眼力があってフィクションとノンフィクション両方の目配りができる。**未解決事件シリーズ**の最初からプロデューサーとして関わってきた彼の功績を称えて、個人としてグランプリの表彰を考えたい。

A 5月放送の**ETV特集「汚名 沖縄密約事件 ある家族の50年**も戦争関連で取り上げる。元毎日記者の西山太吉さんの妻、啓子(ひろこ)さんの日記が3冊、**土江真樹子**さんに託されていた。土江さんは沖縄在任のフリーのディレクターで、西山さん夫婦を20年以上、取材していた。啓子さんが亡くなる前に、

土江さんに託した日記が番組になった。

B 啓子さんと太吉さんは、愛してはいるが「家族」の関係だった。だが、事件で啓子さんも影響を受けて深く傷つき離婚を考える。離婚だけでなく自身の命を断とうする。それでも、子供たちを支えなければと生きてきた。

一方で、太吉さんは毎日バチンコ屋に通い、ギャンブル漬けになり、廃人みたいになる。

C 番組のラスト、太吉さんは沖縄辺野古の埋め立て工事を見ている。西山事件が提起した「密約」は「思いやり予算」に繋がっているという「記者西山」の思いがある…。

この20年、西山さんを追い続けて番組を何本も作っている土江さん、執念の作品です。

D 西山夫妻と交流のある、作家の澤地久枝さんが日記を読むのですが、終戦関連番組で93歳の澤地さんが出てくると、水戸黄門じゃないけど番組に筋が一本通るのです。

A 戦後80年の来年も元気でいてほしい。

B **ETV特集の「隔離と戦禍」**は、沖縄のハンセン病患者たちの戦争中の受難を描いた作品。沖縄放送局の渡辺考Dの力作です。びつくりしました、こんなことがあったのだ、と。

ハンセン病患者が自分たちの町や村に一人もいないことを目指す「無らい県運動」は、どこかに患者たちを隔離収容するというもの。

C この運動が沖縄でも起こります。沖縄本島と宮古島とに2つの施設があつて、本島の施設450人の定員に、普通の市民生活を営んでハンセン病患者が定員の2倍900人も収容されます。収容の実行部隊は日本軍でした。

D しかし、日本軍が収容の施設を基地替わりに使ったために、患者たちは追い出され、400人が死亡する。弾に当たって死んだ患者は、宮古島ではたった1人。あとは病死に追い込まれました。

A 今年の戦争特集 キーワードは「特攻」と言える。

「新ドキュメント太平洋戦争」は大戦末期の一九四四年「絶望の空の下で」。日本は銃後が戦場になり、若者たちは特攻の犠牲になる。

ETV特集「戦艦大和 封印された写真」。大和も最後に「特攻」を選択、乗員三〇五六人のうち生還者は二七六人だけだった。

B Eテレで昨年放送した「戦争遺産島」を、7月31日から毎水曜夜、25分・4回に分けて放送。その中で、「大津島」は特攻兵器『人間魚雷回天』の訓練基地だった。

C サイパン戦の玉砕から、絶対防空圏が破られ、本土空襲があつて、『撃退』から『一億特攻』に変わる。Nスペ「一億特攻」への道「隊員四〇〇〇人 生と死の記録」

D NEPの大島隆之さんが一貫して15年以上も「戦争」や「特攻」に取り組んでいる。今回は自分でナレーションをしている。力作だが「一億特攻」への道」を、どう捉えたらいいのか、正直、私はまだ分からない。

A 最近、戦争の悲惨な映像がまじつと使われている。3〜4年前からか、クレジット付きで恐ろ恐ろしくNHKが映像を出してきた。

8月16日、Nスペ「グランプの戦争」の日本兵の写真がそうだ。従軍写真家が残した「進駐軍向け慰安施設」の写真も含め、替えずに確信を持って、これは必要な映像なのだとしている、僕は良いと思います。

B Nスペ「最後の一人」を殺すまで「サイパン戦 発掘・米軍録音記録」は衝撃的だった。あの録音をよく発掘してきた。「日本人は殺さない限り降伏はしない」と米兵。日本軍は「女、子ども、最後まで戦うべし」。沖縄放送局と福岡放送局の共同制作。75分。

C 沖縄繋がりと言うと、この6月、NHK沖

縄放送局の局長を務めた千葉聡史と沖縄ア

レビを定年退職した山里孫存が合同会社「GODOM（ゴードム）沖縄」を設立した。沖縄を拠点に映像などのコンテンツを制作する。9月、沖縄テレビの平良良一が加わる。

D 因みに、山里さんは民教協スペシャル「サマデモクラーシ」を映画にした。平良さんも「ちむぐりさ 菜の花の沖縄日記」がテレビからスタートして映画になった。

主人公の「菜の花さん」は能登・珠洲市の人能登半島地震から半年後、一珠洲で生きる菜の花さんの今」を沖縄テレビで取材放送した。

A バタフライエフェクト「太平洋戦争 日米プロバガンダ戦」は、メディアの時代で考えると興味深い。アメリカはハリウッドの映画人を動員し、日本はニュース映画の「日本映画社」を利用する。

B ルーズベルトが死体写真を撮るのは駄目だと言ったにもかかわらず、結果では映像を出した。それは死体を見る効果を考えたらだ。アメリカ兵の死体は日本に対する敵愾心を煽り、憎悪をかき立てて、「ジャップを殺せ！」となる。

C 9月1日5時 Eテレ。この頃の時代「名も知れぬ死者を悼むために 西崎雅夫」、関東大震災の朝鮮人虐殺を伝える活動を追ったドキュメント。これはPが鎌倉菜也さん、Dが奥秋聡さん、こだわりを持ってずっと続けている。あの時間じゃないと難しいかもしれないけど、でも1時間枠だからね。

D 民放ローカル局は、ベテランがディレクターとしてこだわっている。あまり大きな声で、自分のテーマを言わないけれど、僕ら放送人の会は、彼らの仕事をちゃんと視野に入れておきたい。

A 信越放送の手塚孝典Dの「お寺と戦争と

私」は面白かった。取材・語りの僧侶、海野紀

恵が実家の跡を継いで、戦争を新たに学ぶ。BS11BSの「ドキュメントJ×長野」で見たのですが、なんで1年後の放送なのか疑問に思う。地元初の放送は23年の8月16日、それから1年間、熟成(?)させたのか、今年の8月11日にBS11BSが放送している。

B ドキュメントJは新しい枠で、TBSには日曜日の「解放区」というドキュメンタリー枠があるが、これも地方局の放送はタイムラグがある。

C 番販（番組販売）で、番組を買って放送するのでタイムラグがある。

D それは分かるが、番組にも旬がある、もつたいないと感じてしまう。

A NNDドキュメント24では、山口放送の「戦前リアル」が力作で良かった。沖縄だけではなく、岩国基地も強化・拡張されている。オスプレイや戦闘機F16、35Aが、ハワイ、アラスカ、サウスダコタから、嘉手納、岩国、三沢、松島にやって来る。

B 九州沖縄の各地で、日米合同訓練が行われ、陸自と米海兵隊が実弾演習をする。

C ETV特集はOBの塩田純さんが意欲的に作っている。8月、2本ある。17日の「昭和天皇 秘められた終戦工作」、新発見の史料は内大臣の秘書官の次男の手帳。労作だが、広島長崎の惨劇を招いた人々の言い訳のようにも聞こえてくる……。

D もう一本が、樺アロ金本Dの「無差別爆撃を問う」弁護士たちのBC級横浜裁判」。裁判では、アメリカ人弁護士が、検事側と弁護士双方について、公正な裁きを試みる。日本軍の軍律会議がどういうものなのか、下級士官は上官の命令は拒否できない、住宅地を狙った無差別爆撃は国際法違反と、主張する弁護

側。

A 感心するのは、この裁判を今もって研究している法律家（神奈川県弁護士会）がいるのが凄い。みな高齢だが、日本の法曹界の信頼につながる。

B それにしても、このややこしい話をよく作り込んでいる。ドラマで言えば「私は貝になりたい」のテーマだ。

C BS2波が1波になって、BSスペシャルが減ったので、ETV特集の制作会社の参加枠を増やして欲しい。

D 「戦場ジャーナリストのエンディングノート」石川文洋さんを追いかけたドキュメント、なかなかの力作でした。ベトナム戦争の枯れ薬剤で4世代が苦しんでいる。琉球朝日放送の作品です。

A 広島ホームテレビの「92歳私の仕事」被爆者サーロー節子「アークイブ映像が多いが、節子さんの前では正座となる。

B 磯田道史の「英雄たちの選択・昭和の選択」、2本を評価したい。「安達峰」郎の半生」と「マッカーサー」直接軍政」の危機」。

☆夏の戦争特集ラジオ

C NHKラジオの「原爆の特集」では、伝統でしょうか、広島長崎の若いアナウンサーが健闘していました。

広島局の「母の願い未来へつなぐタクト」指揮者山下一史のヒロシマ「母の弟（6）が原爆で亡くなり、音楽好きな弟への思いが、息子の一史さんに託され、第一線で活躍する指揮者となる。

長崎局は「食は命なり 87歳の料理研究家・脇山順子」、小学3年で被爆して、「食」をテーマに生きる脇山さんの思いが巧くまとめられていた。調べて見たら、ともに入社3〜4年ぐ

らしいアナウンサーで、NHKは広島・長崎の若い人たちに、ラジオドキュメンタリーを作らせる、という良き伝統がある。

D 文化放送「戦後79年スペシャル『反省の漫才ユモレスク』」。戦前の国策で作られた「ロバガンダ色の強い漫才・落語・流行歌などを、アーサー・ビナードと話芸研究家が紹介する。

非常に国策色が強いが、面白い風刺が込められていた、漫才コンビ「リーガル千太・万吉」による「朝らかな兵隊」を紹介。この企画を依頼した文化放送の力が素晴らしい。

A 当時の検閲は「厳しく取り締まるのではなく、ガス抜きもしていた。生かさず殺さず、それは今も同じじゃないか」とビナードは言う。

☆ラジオの未来

B 総務省のAMからFMへの転換の実証実験・第1次が今行われている。

民放FM局の段階的な停波が24年2月1日からスタートして、25年の1月31日までに13局34波が順次停波していく。

C 現時点でFM転換を行わないとするAM局は、HBCラジオ、STVラジオ、秋田放送の3局です。3局はエリアが広いため、FM波でカバーすると、逆に効果が落ちるからです。

D 残りの民放44局がFM転換を行う予定です。考えられるパターンは3つあります。

- ①は、AM中継局のみ停波する。
- ②は、親局をFMに転換するが、既存のAM親局・中継局はそのまま運用を継続する。
- ③は、AM波を親局・中継局とも完全に停波する。

どれを選ぶかは各局の経営判断となる。
A 今では全体的に、経営は苦しいと言われているが、僕は②の今のままAM親局・中継局を

残しながら、FMに転換する局が結構増えるのではないかと、個人的な願望も含めて思っている。

その根拠は、実証実験に参加してAM親局を停波したのは山口放送だけなんです。山口放送は7月28日にFMラジオ局にシフトしました。

B こういう形でFM局になるラジオ局が本当にいっぱい出てくるのか、最終的には28年に答えが出るが、AM局はNHKだけと違ってしまふこともあり得ます。

C NHKは、来年3月20日にラジオ100年を迎える、その年度中にAM1波を削減する、非常にかっこ悪い100年になる…。

☆ラジオの現在

D ここ数年、人気勢いがあるのは、TOKYO OFMとニッポン放送。大体セットインユーアスが今、5%を切った4%ぐらいで、トップを取ったと言ってもあまり喜べない。

その数字が10%から8%ぐらいのときに、20年トップを続けていたTBSがここ数年精彩を欠いています。

A なぜ、2局は調子がいいのか。TOKYO FMはワイド番組が朝昼夜と均等に全体的に調子がいい。特に昼のワイド番組が手直しされて、「山崎怜奈の誰かに話しかかったこと」と「THE FROD」が13時から16時50分までの「昼帯」で非常に強くなった。

B ニッポン放送は、皆さん存知の『オールナイトニッポン』というブランドが3つも4つも時間帯にあり、特に深夜帯のオールナイトニッポンは絶好調で、ラジオを聞いている若者の多くが聞いている。

C 文化放送では「長野智子アップデート」(15時30分から17時)がスタートし、TB

Sラジオは小泉今日子の「サステバ」と作詞家の松本隆の「風街ラジオ」が始まった。

D 「森本毅郎スタンバイ」の森本さんが9月2日から1週間夏休で、武田砂鉄が3日火曜と5日木曜をピンチヒッターで担当、なかなか良かったです。特に木曜日が絶好調でした。まだTBSの考え方はわかりませんが、「スタンバイ」を武田さんで、と思いました。4日水曜を報道特集の山本恵理伽が担当、これも悪くなかった。小笠原真がサブに入り、これもあ

ると思えました。余計なお世話ですが…。
A 関西では今年の春の改編で、「ありがとう浜村淳です」が土曜日だけになる、代わりにフリーアナウンサーの山本浩之が月・金で「ヤマヒロのびかつとモーニング」が始まる。

B 名古屋でも、CBCラジオで25年続いた長寿番組の「多田しげおの気分爽快!! 朝からP・O・N」が終了して「CBCラジオ#プラス」がスタートした。

☆24年前期のトピックス

TBSラジオのCM問題
C 営業担当社員が無断でCMを差し替え、会長が辞任する。調査からCM表現に意見があったので、CM素材を差し替えたほか、生CMの原稿に変更を加え、広告会社・広告主に報告しないまま放送していた。

D 一番の問題は、CMの放送をもとに発行される「放送確認書」は偽造できないとなっていたのが、誰にも見抜けぬように偽造して、1年ぐらい通用していた、こと。なぜだったのか、わからないのです。

大臣だけでなく、水俣病の報道も問われた
A 68年前の5月1日、水俣病が公式確認される。以来、水俣病被害者と環境大臣との懇談が毎年、行われている。
B 今年の懇談会で、患者団体の発言中にマイクが切断され、発言が制止された。各社取材していたが、1日の夜、テレビでは一社も放送がなかった。2日、熊本日日新聞は「患者団体怒りあらわ 環境省側が発言制止」と報じた。私の古果の熊本放送とフジ系のローカルで長めに報道する。熊本放送から、TBSに実情を伝えたが、全く関心を示さなかった。
C 熊本放送のニュースがネットに上がり、Yahoo!で報道される。それを見たのか不明だが、朝日放送に、テレビ朝日の報道ステーションが番組でやりたいと伝えたため、3日、ローカルでもやろうとなった。つまり、キー局が尻を叩いて、ローカルでも放送となる。
D しかし、これで一気に火がついた。翌日8日には環境大臣(伊藤信太郎)が午前中に涙の記者会見をして、翌日には水俣に飛んできたわけだ。
1日に、なんでテレビ報道は動かなかったのかを確かめてみたら、毎年同じようなやり取りをやって、いつも何らかのトラブルや摩擦があるので、「ああ、また今年もやってくる、な」という程度の認識しかなかった、と言う。
A 特に、水俣病問題をずっと取材してきた人たちが、当事者である患者たちも、こんなに大きな問題になるとは思ってもいなかった。水俣病に対する環境省の対応は、ずっと同じような対応で、たまたま今年、それにスポットが当たったのです。
B 今回の出来事は「第三水俣病事件」「52年判断条件」「環境庁医学専門会議」に徹底するものがある。それは「遮断」という言葉で括る

ことができず。環境省はなんのための官庁なのか、改めて考えさせることになった。

水保病は「診断方法がないから住民健康調査は実現しない」という環境省の論理、いかに空虚な論理かは明かです。

パリオリンピック

A Nスベ「戦禍のオリンピック」、国際体操連盟の渡辺森成会長に180日、密着はしたけれど…。

B ラグランド・セーヌ「開会式の舞台裏第1章『刺破りな夢』第2章『ラストスパート』」が面白かった。フランスの芸術家たちが、みなオリンピックに夢中になる。BS、7月25日と8月11日の放送。

C オリピック閉会式の翌日、12日にテレビ朝日がスタジオにメダリストを10人ぐらい集めて「裏話全部見せます!」を放送。独自取材を入れて、オリンピック中に疑問に思ったことを伝えている。オリンピックならではの「バラエティー完成版」だった。是非、褒め称えたい。

NHKはこれをバケしてヒューマンドキュメンタリーで放送、全然テレビ的ではない。

能登大地震

D 復興関連の番組は一覧表を参照してください。

A 9月1日のNスベ「MEGAQUAKE 巨大地震 軟弱地盤 新たな脅威」は、元巨の能登大地震を取り上げた。「六千年ぶりの大地震で、しかも活断層が重なって、連動して起こり、その上に軟弱地盤があったため、ビル基礎の柱を全部折っていった」という。分かりやすく描いていて、調査報道の中でも相当なデキだと思っ。

B 活断層の上に原発の問題がある…これ

も、取り組んで欲しい。

BSSスペシャルの行方

C BS2波が1波に減った影響で、BSSスペシャルは目立たなくなった。

D ラテ欄に、BSSスペシャル自体が出ない、タイトルの文字数がないから、いわゆるEPGを呼び出さないといけない。

A 視聴者に余計な仕事をさせる。視聴者フアーストはどこへ行った!

B 4月18日のBSSスペシャル「裁判所が少年事件記録を捨てた それは何を奪ったのか」、この大事な問題を、なぜか、BSで真夜中、日付変更線をまたぐ放送、23:25~24:15。アメリカの現状など丁寧な取材で良い作品だっただけに、深夜はもったいない!

やす子騒動

C YouTuber のフちゃんから、8月4日、Xで不適切な表現を含む暴言を吐かれたお笑い芸人のやす子。「とっても悲しい」と、やす子が反応を見せた騒動は大炎上に発展し、フちゃんも活動休止に追い込まれ、各局も出演を控えてしまう。テレビとネットと芸人とYouTuber、24年「夏の夜の夢」の一幕…。

SNSで「いのち はめぐる」
D どなたか、Nスベ「シニア16歳のいのち はめぐる」を見た方いらっしゃいますか。一同 (無言) …。

A (放送内容をかいつまんで紹介) 病死した16歳の少女の笑顔が、感動を欲しがる。消費者たち「に消化されていく。拡散し続ける父親は、「劇場型人生」を生きているようで、共感が湧かなかつた。番組の制作者たちは、父親と弟のこれからに、どう関わるのだろうか。

☆ドキュメンタリー：24年前

木寺一孝の仕事

B 映画「正義の行方」156分を見たけれど、やはりヘビー級だった。木寺さんの執念と、日本の正義の危うさを、時間がある人はぜひ見て欲しい。田端駅から7分、「シネマ・チュブキ・タバタ」で10月1日から15日まで、10時から。休みのある映画館です、確かめて下さい。

C Nスベ「法医学者たちの告白」。法医学者が3人出て来る。

最初の人は不眠症で毎晩10キロ歩く、千葉大の先生。ドラえもんのように、なんでも分かるわけではない。
ルミノール反応の科学鑑定が無視された暗黒裁判を嘆く、東大の先生。

日本の警察・検察が主導する法医学に絶望して、ホノルルで監察医事務所を営む人。

D 番組見て分かったことは、「死亡推定時刻」が無意味だということ。「科捜研」に教えてやりたい (笑い) …。

A 退職後、木寺さんは「ビジュアルオフィス・善」(福岡本社)に入って、NHKで仕事ができる、これはNHKの良いところだ。

北海道放送 山崎裕侍の仕事

B 5月26日(日) 15:30・北海道ローカル「アイヌとヘイト文化振興の陰で」

かつて直接的だった差別は、いまでも形を変えてアイヌの人たちを苦しめる。国会議員に押された当事者、過酷な差別の時代を生きたアイヌ女性、新しいアイヌ文化の形成をめざす若者、そして抗議の声を上げた和人たち。それぞれの証言からアイヌとヘイトの問題を考える。P:山崎裕侍、栗山亘、D:中島達也。

C 番組の完成度や取材深度からいうと65

点~75点でしょうか。ですが、制作者としては、「ヤジと民主主義 以来、「人権と言論」の取材を、後輩記者やディレクターとともに継続的に行っている・山崎裕侍さんの仕事ぶりを称えたい。

Nスベ・調査報道新世紀E04

「オンラインカジノ 底知れぬ闇」

D 多角的な取材がさすがで面白かった。オンラインカジノにはまっていく人が、いかにどんなジャンキーになっていくか…。これからどうなるのか、なかなか腰が座っているドキュメンタリーだった。

Eテレ・ドキュランドへようこそ!

「米議会襲撃が再び起きたら」
シミュレーション 緊迫の6時間(前後編)

A 国家の安全保障の「演習ドラマ」を、そのまま番組にする。アメリカの民主主義の幅広さと奥深さに感動した。

24年の大統領選挙後に、アメリカ議事堂襲撃事件が起こったら、どう対応すれば良いのか、危機管理室の「演習」を、陸海空軍の経験者や政治家たちが、反乱を起こすテロの集団や同調者と、選挙で選ばれて大統領に就任しようとする・政府側とに別れて、その対応をアドリブで議論を進めていく…。

B 俳優を使わず、演習の必要性を熟知している人たちが個々の役割を演じる。素人だがシミュレーションドラマを見ているような仕上がりになっている。

ドラマの合間に、なぜ演習に参加したか、演習をどう思うか、など参加者へのインタビューが入って、ドキュメンタルな事実と芝居とが渾然一体となった「ドラマ」になっている。

C 因みに、大統領を演じていたのは元モンタナ州知事。演習のプロデューサーはベトボ

イス財団CEOのジャンネッサ・ゴールドベック。国家の安全保障を検証する演説家という。日本でやるとしたら、現役を退いた政治家や自衛隊・警察の幹部がサリン事件を前にして……

「100カメ」が面白い

D 「100カメ」(29分)は、100台のカメラを使ってドキュメンタリーの基本を技術で積み重ねただけのもの。

福島第一原発 あれ事故から13年 廃炉作業の最前線をのぞき見! (8月19日)は、事故から13年、毎日4千人が廃炉作業にあたる、その過酷な最前線を緊迫のドキュメントで迫る。

A 「大河ドラマ『光る君へ』 平安の雅を生み出す舞台裏」(9月12日)は、こんなに赤裸々に取材しちゃつていいの、心配になる。5年生の若い演出が迷いに迷って大勢を待たしてしまふ。川に浮かべた模様の鳥のお皿に兩粒一滴を垂らすだけで、膨大な人とお金を使うすごい贅沢。主人公まひろ役の吉高が左ききで、右手で筆を使えるように本気で特訓した話に感動、最後まで見てしまふ。

24年の民間放送連誼賞・九州沖縄地区の作品

*第1位

「魚鱗鱗と生きる」遠くんが歩んだ28年」RKB毎日放送、23年12月28日放送。

B 魚鱗鱗は、魚のうろこのように皮膚の表面が硬くなり剥がれ落ちる難病。遺伝子異常に起因する。その病気の梅本遼をずっと28年間追いかけた作品。成長して一般の女性と結婚する。彼女は病気をまったく気にしない。彼は「理解してくれる人は絶対いるはず、断言できます、結婚は諦めたら駄目です」と言う。

C 母子の人生に言われなき偏見や差別が通

底してきたことを制作者はしっかり捉えている。28年間、関わったディレクターは5人ぐらいて、RKB報道の記者が受け継ぎながら作ってきた。

*第2位(同率1位)

「軽バソガール」私がこの道を進むワケ」KBC九州朝日放送、24年5月28日。

D 軽バンで寝泊まりしながら全国を渡り歩いていく女性たちは、みな変わり者ではない普通の人たちです。「普通」ってなんだろうと考えさせられる。同世代の女性ディレクターの作品。

*第3位

「なんでも特命係発見ろくちやく!」

「28歳小卒女性SP完全版」

FBS福岡放送、23年12月30日。

A 小学校卒業の女性が、高校に通いたいの願いを叶える。彼女の人生は凄まじく、病気も抱えている。そんな彼女が2日間高校に行くという企画。この番組はレギュラー番組で、毎週これだけの質の番組を出し続けている。スタッフの努力に拍手を送りたい。ギャラクシー賞優秀賞受賞。

☆2024年上期

テーマは「女性」

B 女優さんがみな輝いている。単に綺麗ではなく、「アンメット」の杉咲花さん、「家族だから愛したんじゃない」と映画「あんのこ」と

の河合優美さん、「燕は戻ってこない」の石橋静河さん、伊藤万理華ちゃん、「新宿野戦病院」の小池栄子さん、「翼に翼」の伊藤沙莉さん。ドラマが面白く、女優たちがみな素敵だった上半期です。

C それで言うと、24年のテーマは「女性」のようですね。大河「光る君へ」は作家もスタ

ッフも主人公も女性。「虎に翼」はまさにジェンダーとか、女性の生理の問題もあった。D 代理母を扱った「燕は戻ってこない」は完成度が高かった。長田寛恵脚本、桐野夏生原作、田中健二演出も良く、文句ないぞというデキでした。「アンメット」の杉咲花のそはかすが、いかにもミヤビらしいと思う。

Z世代ドラマの脚本家

A 創作テレビドラマ大賞「ケの日のケケ」の森野マツシユの脚本は、まさにZ世代の「言葉」と「間」の世界で、それはSNSで交わされる「文字」と重なって、新しい会話劇を生むのか、それとも既存の価値観のなかに飲み込まれていくのか。NHKが大事に育てているようなので、少し安心している。

人と人の距離と密度の底にある孤独、この時代の生きている喜びのようなものが描ける作家になってほしい。

B ドرامマは「感覚過敏」の高校生の少女が、仲間とともに自分の居場所づくりをする物語。演出は堀切園健太郎。キャッチコピーは、「すべての『生きづらさ』を感じる人々に勇気を届けたい」

連続テレビ小説「翼に翼」

C 吉田恵里香さんの脚本が素晴らしい。週5話の構成と一話ごとの見せ方、つなぎ方、完璧でした。伊藤沙莉をかくも素敵に見せてしまうのもホンの力。戸塚純貴がただのバイプレーヤーではなかったのも、ホンの力。

D 僕は報道畑ですが、朝ドラで原爆裁判をテーマに正面からしっかりと取り上げたのは素晴らしい。あの放送のあと、法律家の人たちが興奮して、向こうから電話をかけてくるんです。よっぽど嬉しかったのだと思います。改めて、ドラマの力ってすごいな、と。

A チーフ演出の榎川善郎さん、統括の尾崎裕和さんらスタッフが、志高い脚本家が思う存分書けるように、よくも支えたものだと感じています。

B NHKの解説委員室に、清水聡さんという司法担当として法律を専門にやってきた方が、自分の最後の仕事はこれだというぐらい、彼がつきっきりでドラマのスタッフとキヤッチボールして作っている。その連携をみると、NHKのテレビ的な深さを示しているのだと思うのです。

C 関東大震災の朝鮮人虐殺、在日朝鮮人の生き辛さ、吉田恵里香さん長年のテーマの同性愛、性虐待の被害者による尊属殺人、東大闘争もありました。他に比較ができないぐらいの社会派ドラマの朝ドラで、朝ドラもここまで来たかと思つています。

D 法の下の平等を定めた憲法14条。壁に書かれた演出は見事です。それと、思いもよらなかつたが、憲法の条文を読むだけで感動する、涙が出て来る。感服です。

A 近來まれにみる朝ドラで、画期的な朝ドラがあつたと、後々言われるでしょう。

B 朝ドラが週6本の放送から、働き方改革で、20年春の「エール」から週に5本の編成になる。おかげで、本作りの労力が少し楽になつて、脚本家もプロデューサーや演出も、1本1本の密度を濃く描こうとするようになる。まる4年を経て、週5本の効能が花開いたようだ。

北と南の「地域ドラマ」をどうぞ

C 最近みた地域ドラマを2本、紹介したい。北海道放送が、自社制作のドラマを作っている。地方の民放は制作会社、それも民放大手の共同テレビやドリマックスに発注して作るのが多かつたが、自社制作で女性ディレクター

が監督をしている。北海道放送「弁当屋さんのおもてなし シーズン1&2」。

D もう一つは、琉球放送の開局70周年記念琉球歴史ドラマ第3弾「阿麻和利」を自社で作っている。沖縄最大の悪役言われている勝連の領主を成敗する、阿麻和利の物語。

琉球歴史ドラマの第1弾が16年、第2弾が19年、第3弾が今年、3シリーズとも、44分の全3話である。制作的にも金がかかって、労力がかかる時代劇だが、沖縄の子供たちにきちっとした沖縄の歴史を見せたいとの狙いから制作を続けている。HuluとU-Nextが配信。南と北の小さな放送局を評価したい。

エンタメの先にあるもの

C Netflixですごく話題になっている、小池栄子と豊悦が詐欺師の「地面師たち」は見始めたら、一気に見たくなる。面白いが放送できない「暴力」がある、地上波ではあり得ない残酷な殺し方がある。監督・脚本が大山勝美賞受賞者の大根仁。

D 大根ワールド満開のテレフイーチャー。達者で面白いけど、最後はあまり後味が良くない…動画配信の傾向の一つでしょうね。

A 今、当たっている映画「ラストマイル」、野木亜希子脚本、塚原あゆ子監督、新井順子P。物流の世界をテーマに確かに面白い。最後まで見せる映画です。なんでもアマゾンで買っちゃうのが怖くなる…。

※公開35日間で動員324万人、興収46億円。
B エンタメは、本来は手段じゃないですか、エンタメと、ズシリとくる内容は決して矛盾しません。最近見た映画から、紹介します。

イタリア映画「夜の外側 イタリアを震撼させた55日間」と、韓国映画「ソウルの春」。

C 「夜の〜」は、モロー元首相の誘拐監禁殺害事件を扱った6時間近く(340分)の映画で

す。22年に前後編で劇場公開して、後に国営放送のRAIで放送して高視聴率を取った。

ベロッキオ監督・原作、脚本。これがエンタメとしても面白く、内容でもズシッとくる。

D キム・ソン監督「ソウルの春」は、韓国現代史の暗部と言われる「民主化を拒んだ軍事クーデター」の一夜の攻防を描いた。動員一千三百万人以上、韓国人の4人に1人が見たという、メガヒットになった。

A 日本でも、エンタメの先にあるものを見たい…済みません、ちょっと独断ですかね。

~~~~~

### 消費歴談会次第

日時：9月14日(土)

14時45分〜17時20分。

会場：八丁堀の貸し会議室。

出席：石橋映里、小川和之、木原毅、新山賢治、菅野高至、鈴木嘉一、深尾隆一、三原治、前川英樹、村上雅通(ZOOM)、

矢島良彰、渡辺宏史、林健嗣(書画)。

以上、13名。



前川英樹



矢島良彰



木原毅



石橋映里



渡辺宏史



三原治



新山賢治



深尾隆一





小川和之



鈴木嘉一



024/10/03 : 菅野記

### 2024年度・上期放送メモ

※人名等の誤記入を謝辞！

#### ～戦争(終戦特集)関連～

3月30日(土) 19:30～、78分、NHKG **NHKスペシャル・未解決事件File10. 「下山事件 第1部」**

△脚本：安達奈緒子、取材：佐野剛史、撮影：相馬和典、D：梶原登城、P：新名洋介、大橋守、制作統括：松本卓臣、山崎啓明、遠藤理史、制作著作：NHK、△出演：森山未来(検事)、佐藤隆太(記者)、大沢たかお(松本清張)、溝端俊平、玉置玲央(李中煥)、前田旺志郎、森崎ウィン、渡部篤郎。～布施検事総長が時効まで捜査～

3月30日(土) 22:00～、55分、NHKG **NHKスペシャル・未解決事件File10. 「下山事件 第2部」**

占領下1949年の夏、常磐線綾瀬駅付近、下山国鉄総裁が轢死体で発見。その真相に迫る。△主任検事・布施健の時効まで15年の捜査資料700ページを入手。△李中煥はGHQのG2に利用された二重スパイ。△「Z機関は二重スパイを使って反共工作を主導」△CICのアーサー・フジナミのメモ「総裁は共産主義者に加担しないか疑われて暗殺された」△児玉誉士夫の証言「米軍の力による殺人、有事のために下山は殺された」△総裁の死後、国鉄は10万人に人員整理。1年後の朝鮮戦争では、米軍の輸送に協力、2週間で1万2千輦。△語り：伊東敏恵、リサーチャー：ウィンチ啓子、コーディネーター：渡辺秀治、D：佐野剛史、P：新名洋介、木村真也、制作統括：松本卓臣、山崎啓明、制作著作：NHK ～関係者の遺族、史料など、よくぞ見つけるものだ！～

5月11日(土) 23:00～、49分、NHKEテレ **ETV特集「汚名 沖縄密約事件 ある家族の50年」**

△沖縄返還での日米の密約をスクープした毎日新聞記者・西山太吉。機密漏洩で逮捕。起訴状に書かれた「情を通じ」が国家の密約を男女のスクンダルに塗り替える。△西山の取材を20年余続けて来た私(土江D)に、昨年、太吉の亡妻・啓(ひろ)子の日記が託される。△西山夫妻と交流がある「密約」の著者・作家の澤地久枝に読んで貰う。△37歳、啓子の葛藤…。△長男・正人は小6。母の日記で初めて知る両親の苦悩。憎しみも愛も無い同居。子どもたちは守る。澤地「啓子は夫を信じていた」。△00年5月我部政明が米公文書の「密約」を明らかにする。△08年、交渉の当事者・吉野が密約を認める証言。△13年2月啓子、永眠78歳。23年2月、太吉、永眠91歳。△語り：山根基世、取材協力：我部政明、奥田知志、飯田正剛、撮影：大石英男、山本勝英、取材：大塩尚弘、D：土江真樹子、制作統括：東野真、前原信也、柳沢晋二、竹内謙介、制作：NHKグローバルメディアサービス、制作著作：NHK、メントワ、～内容豊富な力作です。75分枠で、ゆったりと見たい。立派です・澤地久枝さん、93歳でかくしゃく！～

6月29日(土) 26:50～、30分枠、テレビ朝日 **テレメンタリー2024「戦場ジャーナリストのエンディングノート」**

△沖縄出身のジャーナリスト・石川文洋85歳の人生最終章の旅に同行した記録。△64年8月ベトナムの地獄の戦場へ。沖縄も前線で、69年嘉手納基地からB52がベトナム爆撃に飛ぶ。△「ベトナム戦争??博物館」に文洋の写真が展示。△ホーチンミン市で、戦争を知らない世代へ講演。△枯れ葉剤の障害に苦しむ人々は4世代にわたる。△戦争は政治家が起こして民間人が犠牲になる。△ナレ：山田孝之、題字：石川文洋、撮影：那須雅人(フレックス)、編集・CG制作：又吉謙、D：島袋夏子、P：池原あかね、制作著作：琉球朝日放送。～沖縄では夜7時から放送！ 力作。～

7月7日(日) 21:00～、49分、NHKG

### NHKスペシャル『戦禍のオリンピック～密着180日 対立と分断の裏～』

△ウクライナ・パレスチナの戦闘が続くパリ五輪。ロシアの不参加、イスラエルの参加。△密着対象は国際体操連盟・渡辺守森成会長。信念は「すべての国を参加させたい」だが…。△元凶は憎しみと分断を招く＜愛国心＞。△

語り：中山果奈、取材協力：黒須珠莉、撮影：北野孝治、取材：細井拓、D：荒井愛夕美、高瀬杏、制作統括：佐藤網人、江刺一誠、小林智紀、制作著作：NHK ～放映権料には深くは触らない…～

7月8日(月) 22:00～、44分、NHKG **映像の世紀・バタフライエフェクト「東京、戦後ゼロ年」**

△終戦から7年間、東京の記録。△坂口安吾「戦争になると人間の実相がはっきりと出て来る…。」△リサーチャー：繁昌久美、高澤圭子、藤岡ひかり、取材：池上敦子、編集：西條洋介、D：釜井瑛生、田邊裕也、寺園慎一、制作統括：山中賢一、制作協力：PlanD、制作著作NHK。

7月22日(月) 22:00～、45分、NHKG **映像の世紀・バタフライエフェクト「聖火と戦争」**

△「近代オリンピックの父」・クーベルタン男爵は、オリンピックに平和への願いを込めた。△だが、大会には戦争の影がつきまどってきた。ヒトラーが利用したベルリン大会、テロリストがイスラエルの選手村を襲撃したミュンヘン大会、そして今回のパリ大会は、ウクライナVSロシア。△「平和の祭典」の激動の記録。

8月3日(土) 4:50～、30分枠、テレビ朝日 **テレメンタリー-2024「92歳 私の仕事 ～被爆者 サロー節子～」**

△仕事を続ける原点を探る。生かされた者の使命として。△被爆80年の来年、カナダの高校生を広島へ派遣する…。△協力：ICAN、ナレ：尾野真千子、撮影・編集：中川聖嗣、コーディネート：高島晶、D：斎藤俊幸、P：立川直樹、制作著作：広島ホームテレビ。

8月3日(土) 23:00～、59分、NHKEテレ **ETV特集『戦艦大和 封印された写真』**

△戦艦大和の艦内で撮影された13人の水兵。門外不出の写真の謎を追う。△写真の裏に水兵の名前がある。△石上清文(99)信号兵。恵まれた食事、1人1人にベッド、水洗トイレ、冷暖房、「大和ホテル」と呼ばれた。「戦争は意味が無い」△撮影は塩谷恭三、飛行科(水上警備艇)整備兵曹、写真の修行中で、『ライカ』で大和のカメラマンを務める。△45年4月大和は海上特攻を命じられる。異動を命じられた主計科の水谷(08年没)は塩谷さんから写真を託される。△4月7日14時17分魚雷命中、火薬庫大爆発。乗員3056人のうち、生還者は276人。△米軍の戦闘機から撮影された新たなカラー映像。△水谷の子ども向けの手記、タイトルは「へいわをねがって」だった。△語り：細谷佳正、柴田裕規子、撮影：門脇妙子、井上裕太、D：加藤秀章、P：菅原幸子、制作統括：梅原勇樹、中村光博、吉村恵美、制作：NED、制作著作：NHK、テレコムスタッフ。△「海軍反省会」の音が入る。

8月10日(土) 23:00～、59分、NHKEテレ **ETV特集『隔離と戦禍～沖縄ハンセン病患者たちの受難～』**

△沖縄戦の前夜、ハンセン病患者は日本軍により強制的に隔離収容される。その過酷な受難を見つめる。△2002年、聞き取り調査が始まり、5年を掛けて「沖縄ハンセン病証言集(全2巻)」が作られる。△44年沖縄に第32軍が開設。在宅患者の炙り出しが始まる。本島国頭村「愛楽園」は定員の倍900人になる。△宮古島に3万の部隊。空襲を受けた「南静園」で、患者は置き去り。軍は海岸防護のため立ち退きを命令。△患者たちは自然壕に逃げ込む。子どもたちは餓死。110人が死亡。米軍による死者は1人。△愛楽園は米軍に兵舎とみられて壊滅。自然壕に入って生き延びた神谷幸一(98)の証言。△戦争中に400人が死亡。現在199人。平均年齢88歳。△上里栄(98)偏見差別を根絶させるには、当事者が前に出ねばならないと、語り部になる。△語り：西島秀俊、朗読：津波信一、津嘉山正種、知花小百合、撮影：木村祥太、リサーチャー：安里愛美、D：渡辺孝、制作統括：生田寛、東野真、制作著作：NHK沖縄。～力作です～

8月11日(日) 10:00～、60分、BS-TBS **ドキュメントJ×長野「お寺と戦争と私」**

初回放送はローカル・SBC信越放送：2023年8月16日19:00～、60分。△SBCラジオのパーソナリティ・海野紀恵は浄土真宗本願寺派の僧侶で、実家・千曲市の本覚寺の跡を継ぐ。△本山の戦時調査をまとめた「本願寺派寺院と戦争」を読み、新たに戦争を学ぶ。△従軍布教使(日露)、朝鮮・満州に寺。△大谷派は、五族協和=極楽浄土。真宗は常に忠君愛国を説く。座禅による集中力は戦争にも使える。「一殺多生」1人を殺して多くの人を救う。△真俗二諦、真諦=仏法、俗諦=社会の規範や道徳。戦争中の俗諦は大日本帝国憲法と教育勅語。△信濃町・称名寺(本願寺派)の「石の鐘」。戦中、供出させられた鐘が武器になり、人の命を奪ったかも知れない。戦争への加担をいさめて、戦争がなくなるまで石の鐘を下ろさない。△取材・語り：海野紀恵、撮影：丸山清寿、米山博昭、D：手塚孝典、P：城取英紀、制作著作：SBC信越放送。

8月12日(月) 21:00～、59分、NHKBS

### 英雄たちの選択 昭和の選択「戦争なき世界へ ～国際司法の長・安達峰一郎の葛藤～」

国際連盟の日本代表で、1931年1月、初代の国際司法裁判所所長となった外交官・安達峰一郎。法の下での紛争解決を使命とした安達は、祖国の暴走を止めることを国際社会から期待される。△日本は国際連盟から脱退、34年12月。65歳。△現在の国連の課題にも通じて…。△出演：藪中三十二（元外務次官）、小山渉子（国際政治学者）、柳原正治（国際法学者）、司会：磯田道史、浅田春奈、語り：松重豊、～明治の男！知らなかった。～

#### 8月14日（水）19:00～、60分枠、信越放送 **SBCスペシャル「沈黙の奥底～河野村分村が問いかけるもの～」**

△残された証言と史料から、河野村（現：長野県豊丘村）が送り出した分村移民を問い直す。△胡桃澤伸さんは、村人を送り出した村長・胡桃澤盛の孫にあたる。残された日記を手掛かりに、中国の入植地を訪ねて、開拓団に土地と家を追われた人に話を聞くなど、世代を越えて加害責任と向き合ってきた。この夏は、高校生が主催するセミナーで講演するなど、自らにつながる満蒙開拓の歴史と向き合い、問い続けている。  
△D：手塚孝典、信越放送ディレクター。65年生まれ。長野県松本市出身。97年入社。満蒙開拓を取り上げた番組『刻印—不都合な史実を語り継ぐ』（14年）日本民間放送連盟賞最優秀受賞、『棄民哀史』（15年）『遼太郎のひまわり—日中友好の明日へ』（13年）『汐風（ゆうな）の花園—原発の町の片隅で』（19年）がいずれも同賞優秀を受賞した。

#### 8月15日（木）19:33～、72分、NHKG **新・ドキュメント太平洋戦争1944「絶望の空の下で」**

△太平洋戦争の3年8か月を日記や手記から追体験するシリーズ。第4回は市民の犠牲が急増した1944年。△1万の住民が犠牲となったサイパン島の戦いを、14歳の少女（佐藤多度津）の手記からたどる。△本土空襲が本格化し、銃後が戦場になる。△人間を兵器化する「特攻」の犠牲となった若者たち。6000人（?）。魚雷回天の今西太一（25、慶大卒）は恋人への思いを書き残して11月20日出撃。△中島飛行機武蔵製作所。勤労働員の川田文子（自由学園高校3年）はB29爆撃の犠牲となる。12月3日。125人の犠牲が出る。△語り：伊東敏恵、朗読：國村隼、西島秀俊、柄本佑、橋本愛、小野花梨、山村杏奈、△リサーチャー：藤岡ひかり、高澤圭子、板橋孝太郎、吉見直人、取材：大貫陽、上島妙子、宮智麻里、D：笹川陽一郎、水嶋大悟、酒井邦博、斎藤勇城、P：花井利彦、制作統括：横井秀信、山崎啓明、天野直幸、制作著作：NHK。～いと、せつなし。～

#### 8月16日（金）22:00～、49分、NHKG **NHKスペシャル「グランパの戦争 ～従軍写真家が遺した1千枚～」**

△硫黄島から敗戦直後の日本を撮影した・写真家ブルース・エルカスは「太平洋戦争に何を見たのか？」を、孫娘マリアンが父の写真から辿る。△12年前、息子が産まれた時に祖父から託された1千枚の写真。激戦地・硫黄島、並べられた米兵の遺体や髪が残ったままの日本兵の頭蓋骨。△戦場の兵士たちの日常が映る、うんざりした顔。△進駐軍向け「慰安施設」で米兵と裸の女たち、ブルースが女に口づけ。△慰安施設の設立者・警視總監。米兵の性病を防ぐためMPが見まわる。△ジェンダーと戦史の専門家。極めて男性本位の写真。△皇居前で祖父の写真と同じ位置に立つと、トンボが舞う。トンボは亡くなった人の魂を運ぶ、と涙する…。△語り：寺井幸司、撮影：林克明、取材：渡辺秀治、リサーチャー：ウインチ啓子、コーディネーター：ヒルトファン・ブレーメン、D：森内貞雄、右近雅美、制作統括：内山拓、制作著作：NHK。～マリアンが早口で、字幕が追いつかない？～

#### 8月17日（土）21:00～、50分、NHKG **NHKスペシャル「一億特攻」への道 ～隊員4000人 生と死の記録～**

△統率の外道と発案者がこぼした特攻がなぜ10か月も続いて、日本人が後押ししたのか？ △15年に及ぶ取材で、特攻隊員4,000人の本籍地や経歴を徹底調査。△大西龍次郎中將、44年10月米軍レイテ島上陸、25日体当たり特攻、3人の飛行予科練習生（18歳～26歳）。△訓練を短縮され未熟なまま特攻に出る。△一撃講和＝勝ったところで講和。△メディアによる宣伝。ニュース映像。ラジオ（日本放送協会）で特攻の遺言を放送。△「一億特攻」。国力では劣るが・精神力では勝る。△少年航空兵、エリート士官、学徒…東條英機「上下の家庭が一緒になった」。△練習機がやっと操縦できて、最初の実戦が体当たり！△志願調査…志願の程度（熱望/望/否）、人物評、技量適性、家族構成。△成績の最上位は残し、中位から戦地へ。△地方事務所、志願兵の人数を村々に割り当てる。△海軍部長「沖繩決戦でみなつぎ込め」、4月1,500人以上出撃。5月旧式の水練練習機の特攻で300人の命を失う。△特攻が出撃している限り、日本は負けない。△語り・D：大島隆之、撮影：金沢裕司、CG作成：安井浩次郎、リサーチャー：藤岡ひかり、尹宝翔、取材：安本浩二、制作統括：太田宏一、齋藤圭介、制作：NEP、制作著作：NHK、～遺書、日記、手紙、和歌の朗読が心に残るようで残らない、なぜ！～

#### 8月17日（土）23:00～、59分、NHKEテレ **ETV特集「昭和天皇 秘められた終戦工作」**

△昭和天皇の「聖断」の2か月前（45年6月22日）、内大臣の木戸幸一が重臣たちを説得、御前懇談会で終戦の方針が決まっていた。△木戸に終戦工作を助言したのは、後に東大総長となる南原繁である。△新発見の史料：内大臣木戸幸一の秘書官・松平康昌の次男・孝彦の手帳に、その経緯が記載されていた。△南原はアメリカとの直接交渉、「天皇の詔勅と退位」をセットに終戦を構想。△政府はソ連を介した和平に望みをかけ、原爆投下・ソ連参戦の末に終戦。△遅すぎた聖断。南原の回顧・主観的な自己満足。戦犯になった木戸は「天皇には道義的責任がある、退位すべき」△コーディネーター：ウインチ啓子、リサーチャー：長峰麻紀子、高澤圭子、取材：吉見直人、D：小林亮夫、岡田亮、制作統括：塩田純、梅原勇樹、制作著作：NHK、～広島長崎の悲劇を招いた人々の言い訳にも…。～

8月18日(日) 21:00～、75分、NHKG **NHKスペシャル「最後の一人」を殺すまで ～サイパン戦 発掘・米軍録音記録～**

△『海兵隊のラジオ通信兵』の音声戦闘記録＝戦う兵士たちの声をアメリカ国内へラジオで届ける。アメリカ議会図書館にあった。△50時間未編集の録音に、元兵士の新たな証言を加え、サイパン戦を立体的に浮かび上がらせる。△6月15日上陸開始。3日間で日本は兵力の殆どを失う。海岸の刺激臭。米軍2000人の死傷者。△命を投げ捨てて突撃する日本兵に、憎悪をかきたてるアメリカ兵。△上陸から2週間、疲弊してゆく兵士たち。家に帰りたい。△米軍は住民を撃たないと知った日本兵が住民を盾に紛れて戦う。陸軍軍務局長「女、子ども最後まで戦うべし」。△米兵は民間人が死ぬことに良心の呵責がなくなり、狂気を帯びて、2人の将校がマシンガンで住民を殺す。△7月7日日本軍は総攻撃で3000人が玉砕。7月8日米軍サイパン島占領。△マップ岬で日本人が崖から身を投げる。「日本人は殺さない限り降伏はしない」と米兵。△死者：米軍3千人、日本兵4万1千人、住民約1万人(先住民1千人)。△証言「原爆投下は素晴らしい! もっと使ってくれ!」△語り：上田早苗、撮影・VFX：佐々倉大、編集：西谷和家、コーディネーター：松本宇位里、リサーチャー：柳原緑、板橋孝太郎、取材：長坂慈恵、D：三宅佑治、小林宏太郎、P：小池幸太郎、制作統括：生田寛、小口拓朗、廣田昌也、制作著作：NHK沖縄・福岡。  
～戦いによって両者が狂気になる、人間の性なりか…。～

8月24日(土) 23:00～、59分、NHKEテレ **ETV特集「無差別爆撃を問う ～弁護士たちのBC級横浜裁判～」**

△公正な裁きを試みた弁護士たち。BC級戦犯が裁かれた横浜軍事法廷。45年12月18日～49年10月。△神奈川県弁護士会BC級戦犯調査委員会が『再審査記録』をもとに裁判を再検証。△長野の捕虜収容所で虐待の罪に問われた所長と看守たち。横溝貞夫弁護士。5人絞首刑。△横浜の造船所で50人以上の捕虜が死亡。捕虜収容所の所長ら3人が絞首刑判決。再審査記録では「被告の行動で死者は出ていない」と終身刑に減刑を勧告、2人は終身刑、1人は重労働30年。△BC級戦犯で123人の死刑判決、執行は51人。△45年5月の名古屋大空襲の搭乗員15人が「空襲軍律」で裁かれる。名古屋は航空機製造の中心地。△「空襲軍律」は42年4月のドーリットル空襲の搭乗員を裁くために制定。軍罰は死刑・銃殺。△「軍律会議」は戦地司令官が権限を持ち、非公開で弁護士無し。△45年7月、岡田資(たすく)東海軍司令官のもと、11人の米搭乗員の軍律会議が開かれ、その日死刑が確定。△48年1月横浜のBC級戦犯裁判で罪に問われる…伊藤法務少佐が捕虜を不法に殺害した。△検事：トーマス・オコーナー弁護士…「搭乗員は戦争捕虜、ジュネーブ条約で守られている」「軍律会議の翌日に斬首。軍律では銃殺刑」。△弁護士：カーク・マドリックス弁護士…「無差別爆撃は国際法違反だから戦争犯罪人」「軍律会議の正当性を主張」証拠として「爆撃記録～米第20航空隊戦術任務報告書」を提出＝攻撃目標は名古屋北部の市街地、焼夷弾で大火災・住宅地を狙った無差別爆撃は「国際法」に反し戦争犯罪である。上官の命令は拒否できない。△判決：48年3月。伊藤は絞首刑。再審査によって終身刑。再審査官は「軍律会議の手続きを批判、わずか1時間半で弁護士や通訳無しで、公正では無い」。△岡田が一人、全責任を認め絞首刑判決、他は減刑。  
△<米軍の台湾空襲>。54人の搭乗員のうち、裁判で14人が死刑。検事の池田金市法務官が「軍律違反の無差別爆撃と銃撃により」死刑判決を宣告、斬首から銃殺に。残り40人は捕虜収容所へ。△検事を務めた池田は「横浜裁判」で裁かれ、1日の裁判で重労働4年に。再審査で、池田は不法な裁判だと黙秘を貫く。△裁判の不法性を世界にアピールされては叶わないと、アメリカから司法取引を持ちかけられる。「不法」を削除し3年以内の刑で司法取引。△戦争の時代、55年の原爆裁判の意義、96年の国際司法裁判所勧告の危うさ。△処刑された米兵の遺族たち。△出演：佐野史郎、古河耕史ほか、撮影：須田眞一郎、関根征宏、リサーチャー：石井佳美、相子貴浩、コーディネーター：柳原みどり、取材：清水聡、藤井沙織、D：金本麻理子、制作統括：東野真、塩田純、制作：NED、制作著作：NHK、椿プロ。  
～内容が豊富すぎて、理解が及ばない?!～

8月25日(日) 24:55～、55分枠、日本テレビ **NNNドキュメント24「戦前リアル」**

△戦後79年の基地を考える。△アメリカのシンクタンク『CSIS』が昨年発表の<台湾有事のシミュレーション>(以下『想定』と書く)では、在日米軍基地が中国の攻撃を受ける。△2018年岩国基地は沖縄嘉手納基地とともに東アジア最大級の基地となる。△『想定』:26年、中国の台湾侵攻に米軍が動く、中国が反応。①嘉手納、②岩国、③三沢、④横田が狙われる。△野添文彬(沖縄国際大学准教授)の解説:中国は真っ先に嘉手納基地を攻撃、滑走路に相当の被害。△『想定』には民間人の被害は書かれていない。△南西諸島に陸上自衛隊の駐屯地。宮古島、奄美大島、石垣島に地对艦ミサイルとミサイル部隊を配置。△石垣島の農民「有事には『捨石』になる」。△防衛省の避難計画「12万人の住民を九州・山口に航空機で避難」。△石垣の山里(87)さんは、山奥に避難して母と妹をマラリアと栄養失調で失う。△岩国基地を毎日写真で撮る、原爆の語り部だった戸村良人(78)さんは、「軍都」広島に原爆が落ちた。今は岩国が狙われる。△昨年2月、岩国広島沖の日米合同訓練は揚陸艇の共同利用。△『想定』は戦力分散を提言。昨年6月、戦闘機F16、35Aが各基地間を飛行訓練。嘉手納→岩国、ハワイ・アラスカ・三沢→岩国、サウスダコタ→松島。△『想定』は民間空港の使用も提言。△8月7日～九州・沖縄各地の日米合同訓練は「離島の防衛」。陸自・米海兵隊が実弾演習を行う。△ナレ:「戦後79年、私たちが生きているのは、本当に戦後なのでしょうか?」△ナレ:湯浅真由美、取材:瀬川晃彦、大森健一郎、松永崇、長尾聡、尾崎秀平、瀧口丈雄、撮影:山本透、山本宏幸、監修:尾崎宏行、D:大坪敬之、P:佐々木聡、制作著作:山口放送。～力作です。～

8月26日(月) 22:00～、44分、NHKG **映像の世紀・バタフライエフェクト「太平洋戦争 日米プロパガンダ戦」**

△太平洋戦争は日米のプロパガンダ戦でもあった。△アメリカはハリウッドが協力して、戦場のリアルな映像で国民を戦争に駆り立てていく。△

日本はニュース映画を使い、銃後の人々を総力戦に巻き込んでいく。△またラジオ放送では「東京ローズ」と呼ばれたアナウンサーたちが敵兵の戦意喪失をねらった。△戦局が進むと日本は偽りの戦果を伝え、アメリカは大量殺りくを正当化していく。△国民をあおり不都合な真実を伏せた日米の戦いの記録。△親戚の見舞いに日本を訪れ、開戦で帰れなくなった「東京ローズ」はアイドルなみの人気で米兵を楽しませる。△戦後、従軍記者が東京ローズを探し出し、49年7月反逆罪で収監、アメリカで裁判になり、市民権を奪われる。35歳、大統領の恩赦で釈放、60歳で市民権を取り戻す。△06年退役軍人会から愛国的市民の表彰を受ける。9月、90歳で永眠。「たった1枚のカードを引いて、運命が変わる」△語り：糸井羊司、リサーチ：杉田晶子、高澤圭子、藤岡ひかり、取材：後藤沙英、編集：森田光、D：田客承、P：寺園慎一、制作統括：山中賢一、伊川義和、制作協力：PlanD、制作：NEP、制作著作：NHK。

#### 9月1日(日) 5:00～、60分、Eテレ **こころの時代 宗教・人生「名も知れぬ死者を悼むために 西崎雅夫」**

△西崎雅夫(64)。関東大震災の時に民衆などに殺された朝鮮人を追悼する活動。△西崎さんらは、東京都墨田区の荒川沿いに、流言飛語にあおられた人々に殺された朝鮮人を追悼する碑を作った。△しかし、死者の名は刻まれていない。現在まで十分な調査が行われていないため、多くの死者の名は不明で、その人生をたどることもできない。碑に刻まれた「悼」の一字が、その象徴だ。△この虐殺事件の詳細、証言は数多く集められていること、若い世代が真つ当な感性で受け止めていることが、大きな救いである。

△虐殺の現場の荒川河川敷で、若者が読んだ詩が心に響く。『あなた』は誰ですか/100年前のあなたをこの場所から想像したい/生活の延長線上で隣の人が殺されたり殺したりしたこと/もしかしたら/あなたが隣にいたかもしれないということ/もしかしたら/隣にいるあなたがいないかもしれないということ/私たちは今ここにいる/あなたも確かにこの場所にいた/名前も知らないあなたへ/『あなた』は誰ですか/来年もまたここであなたに会いたい △ナレーションは加賀美幸子さん、言葉の一つ一つに魂が込められている。△名も知れぬ死者を自分はいまどのように悼むことができるのか。その問いを抱きながら、できることを一つ一つ積み重ね続けています △語り：加賀美幸子、取材協力：一社「ほうせんか」制作統括：鎌倉英也、P：矢部裕一、撮影：竹内秀一、編集：西條文彦、D：奥秋聡、制作著作：NHK

#### 9月9日(月) 22:00～、44分、NHKG **映像の世紀・バタフライエフェクト「9.11 あの日は変えた私の人生」**

△2001年9月11日のアメリカ同時多発テロ。3千人の犠牲者。24人の日本人。△息子を失ったふたりの父親のその後の人生をたどる。△息子が殺された理由を知りたいと、テロの首謀者・ビンラディンへの手紙を携えアフガンに渡った父親・白鳥晴弘。△テロの記憶を風化させまいと567ページものアメリカ政府の報告書を10年がかりで翻訳した父親・住山一貞。△深い悲しみを抱えつつ、憎しみの連鎖を断つために踏み出した人々の23年の記録。△取材協力：渡辺靖、時代考証：中村紀、撮影：松村千帆、リサーチ：卜部弥生、高澤圭子、取材：平野昌孝、編集：西條洋介、D：鹿島真人、P：田邊裕也、寺園慎一、制作統括：山中賢一、制作協力：PlanD、制作著作：NHK。～悔い改めた白人至上主義者・死刑囚。ジハードを誓う少年の消息が途絶えて・殺人か…。悲しくも重し。～

#### ～ラジオ・戦争特集～

#### 8月6日(火) 9時05分～、50分、NHKラジオ第1 **広島原爆の日ラジオ特集「母の願い未来へつなぐタクト～指揮者山下一史のヒロシマ～」**

△広島市出身の指揮者の山下一史さん。晩年の手記を読んで、母・博子さんの壮絶な被爆体験を知る。△命懸けで生んでくれた母への感謝の思い。「無駄には生きられない」と、母の影響がきっかけで始めた音楽で平和を伝える活動を模索している。△ドラマと朗読、ドキュメントで綴る。朗読は大竹しのぶさん。

#### 8月9日(金) 16時05分～、50分、NHKラジオ第1 **長崎原爆の日特集「食は命なり 87歳の料理研究家・脇山順子」**

△料理研究家の脇山順子さん87歳は、小学3年生で爆心地から3.3kmの自宅で被爆した。△戦後、家庭科教師となった脇山さんは「食」を通して被爆の実相と平和の大切さを伝え続けている。その生涯を追ったラジオドキュメンタリー作品。△「石以外は、何でも食べられる」と食材を一切無駄にしないのは、戦時中の経験に基づいている。

#### 8月9日(金) 20時～60分枠、文化放送 **戦後79年スペシャル「反骨の、漫オコモレスク」**

△詩人アーサー・ビナード氏の埋もれかけた戦争の真実を発掘するシリーズの最新作。△戦前戦中のメディアや娯楽のありようを話芸研究者らと掘り起こす。△古いレコードから、国策で作られた流行歌や落語などのプロパガンダ色の強い音源を紹介。△笑いにこくめて世相や戦争をチクリと刺した、漫オコンビ「リーガル千太・万吉」の「朗らかな兵隊」シリーズを伝える。「英語にしても面白い」漫才だとビナード氏もイチ押し。△当時の検閲は、「ガス抜きもしていた。生かさず殺さず、それは今も同じじゃないか」と。△千太・万吉は当局の顔色や空気をうかがいながら、ギリギリの線を攻めていると。△プロデューサーの関根英生は「アーサーさんの新解釈は面白い。当時の息苦しさも感じて欲しい」。△放送、約10分後に地震情報、40分後に鉄道の運行情報とパリ五輪情報。

#### ～能登半島地震の関連～

#### 4月6日(土) 4:30～、30分、テレビ朝日 **テレメンタリー2024「液状化に揺れるまち ～能登半島地震 新潟で見えた教訓～」**

△震源から100キロ以上離れた新潟市で「液状化現象」が発生、住宅被害は9,500棟にのぼる。△60年前、1964年M7.5、アパートが液状化で倒れる。被害は2万6千棟。液状化の研究が始まる。△(6年前に)調べると、川が流れていた「川道」を埋め立てた土地で、液状化の履歴がある場所に家は建っていた！△現在、全国で液状化ハザードマップを作成中で、土地建物取引の重要事項説明の項目に入るかを検討中。△新潟県は対策をしなければ、3回目の液状化もある。△地域全体で液状化に取り組んだ成功例の紹介。柏崎山本団地。地下水位低下法、地下に穴の開いたパイプを埋める。工事費4,000万円、1棟あたり70万円。△液状化対策、国の補助率2分の1へ。町ぐるみ対策の動きもある。△ナレ：岡拓哉、D：笹井継夫、南部健吾、柿木哲哉、池田藍子、制作統括：木村陽介、P：鈴木麻里子、制作著作：新潟テレビ21。

～教訓を意識して忘れて儲ける輩がいる…ニッポン。～

#### 4月6日(土) 22:00～、60分枠、NHKG **NHKスペシャル「ふるさと再建 見えてきた壁～能登半島地震3か月～」**

キャスターの山内泉は金沢が赴任地で、3月中旬のレポート。①<生活は取り戻せるか。立ち上がる壁>、②<道路の復旧・最新調査>、③<高齢化進む地域 医療・介護の立て直し>、④<新しふるさとの形、動き始めた人々>

△農家の松井さん、残った人たちが米作りをしよう、次世代に田んぼを残すため。△県農林水産課・槻さん「震災前に戻ることは無い、

新しい能登町に向けた復旧復興 ～※クジツ無し～

#### 4月7日(日) 24:55～、30分枠、日本テレビ **NNNドキュメント24「復興スーパー 能登半島地震3か月」**

△2月5日取材。石川県輪島市町野町、町で唯一のスーパー。元日の地震で、店は1か月以上も水は出ず、電気も止まったまま。自宅も傾き、本谷さん一家は店内で寝泊まりしながら、元日から1日も休まず、営業を続けている。△本谷一郎、理知子夫妻、三代目・息子の一知(46)。冷蔵庫の在庫1千万円が無駄に。△1か月半、電気がつく。△3月4日～小学校に仮設住宅。3月下旬、野菜が入荷。豆腐屋も避難先から戻って来る。△三代目が軽トラで移動スーパーをはじめる。△「町野から離れた住人に戻って欲しい…。」△ナレ：種崎敦美、D：住田鉄平、P：岡本達生、制作著作：テレビ金沢、

#### 6月28日(金) 22:00～、54分枠、テレビ東京 **日経スペシャル ギアの夜明け「進めぬ復興 その真実 ～能登半島地震から半年～」**

△崖の上の人気ベーグル店が、崖崩れで立ち退きか。経営する山下祐介(38) 桂子は借金3,000万円。本業は農家だが、田の地割れで水が引けない。田植は2割。△奮闘する信金マン。堂角清志(のと共栄信金輪島支店)支店長。支店は職員6人。△5月、支店で「なりわい補助金」の説明会。△800軒の取引先のある「包装資材店」、倉庫3棟が全壊。公費解体のために、倉庫の図面を作る、書類も多く記入が大変で、見積が進まない。△支店長、見積無料の見直しを県に依頼するが…。△解体希望者110軒のうち申請できた人は2軒。△信金自体も大幅な赤字・38億円。△解体の日数は1軒当たり10日前後。解体作業の社長の自宅も全壊、従業員も被災者。月に2軒～3軒しか解体できない。△週1回休日、給料30万円を支給。地獄を見た社長の決意だ。△公費解体の見直しを、環境省大臣・伊藤信太郎に問うが、「来年10月までに終わるか言えない」と。△ベーグル店の融資300万円が決定。6月には朝市の解体も動き出す。△案内人：松下奈緒、△<ドキュメンタリー>構成：高野健生、カメラ：小口瑞希、D：宮下裕佳里、伊大知明宏、P：小川和嶋、CP：鈴木嘉人、協力：日経新聞社、制作著作：テレ東。

#### 7月6日(土) 17:30～、枠内特集/10数分・TBS **「能登地震半年 どうする自宅の解体」**村瀬健のレポート

△申請4700棟、解体済350棟、県全体の4%。人手不足、支援の職員が少ない。△あとで県が代金を払う、自費解体では、ゴミを災害廃棄物として扱わず、業者が金沢の処分場まで3往復して運ぶ。費用は全額支払われるのか不安。申請して金が下りるまで業者の負担。△断水が続く、珠洲市宝町。津波の被害もある。△頼りは外国人労働者、宿舍の建設からはじめる。2年過ぎると、再建意欲が減少して、離れて行く…。

#### 7月6日(土) 22:00～、49分、NHKG **NHKスペシャル「うちらがせんと誰がする ～能登・信金職員たちの6か月～」**

△中小企業や個人事業主を支える信用金庫の職員たち、廃業が相次ぐ困難な状況で「地域外から稼ぐポテンシャル」をもとに、10年後を見据えた復興につなげようと、被災地の事業者を一軒一軒訪ねては、その道筋を示そうとしている。△「地域の価値を将来に残せるか」、信金の経営も苦しい中、奮闘する信用金庫の職員たちの日々を追う。△新しい能登をつくろう！ 信金支店長・中野文彦さんのキャラが良い △語り：山内泉、瀧川剛史、取材：榎嶋愛理、水谷宣道、竹村雅志、撮影：奥村翔平、林豊、D：榎木佑介、美濃里亜、村上由和、P：井上新治郎、西浦将、制作統括：宮本拓哉、吉武洋輔、木下崇、制作著作：NHK ～人海戦術のNスペなので…。～

～ドキュメンタリー一般～

#### 4月13日(土) 22:00～、49分、NHKG **NHKスペシャル「シェア16歳の「いのち」はめぐる」**

△4年前に白血病で亡くなった小山田優生(ゆい)(16)。彼女は余命宣告を受けたあと、SNSに「笑顔の動画」を毎日のように投稿していた。△その動画を別の人がシェアしはじめ、フォロワーが増え続けている。△そして、この春、1人のフォロワーが優生さんの遺影の前に立った。白血

病のくるみさん。△時間や空間を超えてめぐる16歳の“いのち”。作家の川上未映子が解き明かす?? △出演：川上未映子、語り：平体まひろ、取材：平間一彰、D：山崎真穂、山根拓樹、福井瑛子、制作統括：阿部宗平、宮崎亮希、高比良健吾、制作著作：NHK ～16歳の命がデジタルで世界を駆け巡り消費される、感動を欲しがる消費者のために…。父親は何に酔っているのだろう。NHKも拡散の加担者では?～

#### 4月18日(木) 23:25～、50分、NHKBS **BSスペシャル「裁判所が少年事件記録を捨てた それは何を奪ったのか」**

△神戸児童連続殺傷事件など、社会を震かした重大少年事件。その審判の記録を、各地の裁判所が廃棄。一昨年発覚、廃棄事件は52件に及ぶ。△5月最高裁は総務局長が謝罪。永久保存の規定を決める。24年1月から運用。△当事者たちの証言と海外の事例(裁判記録の活用が進むアメリカの現状)から、事件記録の保存・活用はどうあるべきか考える。△語り：ayako-Halo、取材：春日龍一、池田麻由美、武田麻理子、コーディネーター：木村えり、撮影：横山健四郎、編集：岸端洋子、D：山本諒、制作統括：西山穂、制作著作：NHK

～労作。深夜では無く、地上波で放送すべきです!!～

△神戸の遺族・土師守(68)・・・(改正少年法以前は)「被害者遺族には事件や裁判の情報が入らない。だから、いつかは裁判の記録が見られるものと思っていた」△少年事件の記録は26歳に達するまで保有、世間の耳目を集める・必要とした場合は特別保存になる。

△山下さん(彩花10歳の遺族)・・・知りたいと訴えてきた、記録はこれからのために大事だ。△事件記録は誰のものか・・・精神鑑定書など児童心理学などの研究に資するもの、記録が無ければ「どの時点を防げたのかを検証できない」。△亀岡暴走事件の遺族・中江義則(通学路で付添のボランティアをしていた・妊娠中の26歳の娘を失う)・・・各地の刑務所で語りかけている。記録の廃棄は「娘が生きていたことも無かったことにされる」△長崎県佐世保市女子児童殺人事件の小松平内裁判長・・・少年法の理念で更生の妨げになるので保存しない。永久保存には消極的。△当時、中学3年だった兄(34)は、これから遺族の記録を読んで、事件に向き合いたかった。△アメリカの事情・・・記録を保存し活用。被害者は33年経ってもトラウマになる。記録は家族の物語、現在デジタル化。プライバシーを守りながら保存すれば良い。少年犯罪の心理学：一次記録が大事、精神的病理が分かる。記録から気づくことがある。△大事にされたことの無い少年は命の大事さが分からない。関わった少年をフォローする野村弁護士。△土師さん、新聞記事のスクラップなど集めた記録を電子データ保存で、自分なりに残して置きたい。

#### 6月30日(日) 21:00～、59分、NHKG **NHKスペシャル「法医学者たちの告白」**

△法医学者たち4人の告白から日本の司法制度の課題に迫る。△司法解剖が数週間待ち⇄警察は効率化を求める。解剖医は全国で150人。国は法医学の予算を増やしていない。異常死20万人/司法解剖1万人。国が実費を負担。検死官が解剖か否かを決める。解剖は警察官が立合・写真を撮る。△<死者の声を聞く>旭川医大・清水恵子教授・・・女性法医学者の草分け、女性は全体で2割。薬物が専門。神に祈って癒やして貰う。袴田事件の鑑定/血痕は味噌につけると黒くなる。自然科学に誠実でありたいと証言台に立つ。裁判所は都合の良いように編集して利用する。△

<法医学の危うさ>千葉大法医学部・岩瀬博太郎教授・・・10年前より、不眠症で10キロ歩く。96年足立首無し事件/警察は首締め殺人=石山東大教授の鑑定、岩瀬は、死因は判定できない。頭部が出てきて受刑者が「バットで殴った」と自白。脆弱な法医学が使われ、検察・弁護人、それぞれの依頼で証言台に立つ。「分からない」という証言。法医学はドラえもんみたいに、何でも分かるわけではない。解剖を効率化すれば冤罪に結びつく、犯罪を見逃すことになる。△<無視される法医学>東大・吉田謙一名誉教授・・・退職後、弁護側を引き受けると司法解剖の依頼が来なくなった。今市事件第2審(2017年)警察は現場の山林で殺されたと、落ち葉にルミノール反応が出ていると主張。実験「血液は地中に染みこまない。ルミノール液を落ち葉にまくと、落ち葉と酸化鉄が反応・青光りする。」と裁判で証言。裁判長と検察が訴因変更する。判決は「殺害現場は虚偽の自白、殺害の自白は信用できる、と無期懲役」。事実認定を無視した判決、科学鑑定は全く無視された。暗黒裁判だ。△<日本から飛び出した法医学者>ホノルル監察医事務所・小林雅彦・・・21年前、33歳。日本に絶望してアメリカへ。年間3500体。医師2名/捜査官11名。解剖医が解剖するか否かを決める。死因を決めるのは監察医。凶器の特定は決めない。死亡推定時刻は科学的根拠が薄い。裁判では中立(検察側の証人で出廷、弁護側に情報提供)。警察と上下関係は無い。自分の好きな捜査ができる。日本に戻るつもりはない。△語り：國村隼、撮影：桃田憲春、コーディネーター：宇都克仁、リサーチャー：本間咲貴、D：木寺一孝、制作統括：東野真、岩下宏之、鶴谷邦顕、制作：NED、制作著作：NHK、VOZ。

～秀作です。～

#### 6月29日 21:00～、分、NHKG **NHKスペシャル 調査報道新世紀File4.「オンラインカジノ 底知れぬ闇」**

△インターネットを通じて行うギャンブル、いわゆる「オンラインカジノ」の闇に迫る。△手元のスマホからいつでもどこでも賭けられ、瞬く間に多額の借金を背負い、ギャンブル依存症を発症する人も少なくない。△日本では違法だが、利用者数は推計で約数百万人とも言われている。取材班は、オンラインカジノの関連企業が存在すると見られる、地中海に浮かぶ島国・マルタ共和国へ。そこで働いていたのは、日本の若者たちだった…。

#### 8月19日(月) 22:00～、44分、NHKG **100カメ「福島第一原発 あの事故から13年 廃炉作業の最前線をのぞき見！」**

△あの事故から13年。毎日4千人が廃炉作業にあたる「福島第一原発」に100カメが潜入! △今なお高い放射線量のなかで闘うのは、とび工、クレーン操縦士など、全国の建設会社から集まった腕利きの職人たち。△被ばくを極力抑えるため、スピーディーかつ安全に作業を進めようと神経をとがらせる「極限状態の現場」をのぞき見する。△固定カメラだからこそ、撮影できた廃炉作業の過酷な最前線。誰も見たことがない緊迫のドキュメント。△MC：オードリー(若林正恭・春日俊彰)、編集：上原康、取材：鈴木章雄、D：小林涼太、P：尾上哲哉、制作統括：桜井和記、

制作著作：NHK。

#### 9月1日(日) 21:00～、49分、NHKG **NHKスペシャル「MEGAQUAKE 巨大地震 “軟弱地盤” 新たな脅威」**

△元日の能登半島地震は、活断層の地震として過去最大規模。木造や鉄筋コンクリート造の建物が数多く倒壊した。△科学者は“軟弱地盤”によって揺れが何倍にも増幅された可能性を指摘、耐震基準の考え方を変える必要性を訴える。△今、警戒を強めるのが近い将来起こるとされる「首都直下地震」。東京などでは軟弱地盤が広がっていて、建物被害拡大のおそれがあるという。△地下に潜むリスクを共有、命を守るために必要な備えを探る。△語り：井上二郎、撮影：高津裕治、CG制作：番井みさ子、VFX：佐藤望、全国ハザードマップ開発：大石寛人、映像データ分析：富田千尋、リサーチャー：高澤圭子、編集：渡邊吉博、土肥洋志、取材：老久保勇太、D：三木健太郎、林秀征、高橋弦、P：阿部宗平、制作統括：金森誠、小林直、中井暁彦、制作著作：NHK。

9月6日&13日(金) 23:00～48分×2回、NHKEテレ

#### **ドキュランドへ ようこそ！「米議会襲撃が再び起きたら シミュレーション 緊迫の6時間 (前後編)**

△2024年大統領選の結果を受けて、再び議事堂が襲撃されたら、大統領と政府中枢はどう対応すべきか？大規模な暴動を想定した、軍関係者や政治家による演習の記録。△(前編) 演習は、2期目を迎えるホーサム大統領に僅差で負けたストリックランド候補の支持者数千人が軍人らの協力で議事堂を襲うという設定。襲撃のニュース映像が流れ、警備にあたる州兵の一部が過激派だったと判明する。大統領は全米に広がる事態を収束させることができるのか。現役州知事や軍関係者が大統領、軍部、警察のトップなどの役割を演じ、演習はアドリブで進行する。

△(後編) 選挙結果への不満から6つの州で暴動が起き、アリゾナでは軍部が議員を人質に州議会を乗っ取る事態に。州知事は「連邦政府に可能な手段をすべてとってほしい」と要請。大統領は国民に対して米軍を差し向けるか否かの選択を迫られたが、武力行使を回避。反乱の首謀者に「愛国者とはこの国の民主主義を信じる者だ」と呼びかけた。△現実さながらの緊迫した意思決定のプロセスに密着。△原題：WAR GAME (アメリカ/2024年/Matador Contentほか5社の制作)

#### 9月12日(木) 19:30～、44分、NHKG **100カメ「大河ドラマ『光る君へ』 平安の雅を生み出す舞台裏」**

△吉高由里子さんの美文字、柄本佑さんのオフショット、大石静さんの愛ある差し入れも…！ △平安中期の貴族社会を描き、大人気の大河ドラマ「光る君へ」。その舞台裏を100台の固定カメラで記録した。△9月8日の放送回、ドラマの見せ場シーンに準備から密着！そのシーンのためだけに作られるオリジナルセットの出来栄は？ △雅な世界の裏で、多くのスタッフたちが廻り回す。大河演出に初めて挑むルーキーの奮闘ぶりにも注目！

MC：オードリー(若林正恭・春日俊章)、編集：熱海史郎、D：鈴木裕貴、P：須田雄一郎、制作統括：渡辺隆文、制作著作：NHK。

#### ～林健嗣氏の推薦・北海道放送の山崎裕侍氏～

5月26日(日)15:30～、北海道放送。

#### **「アイヌとヘイト～文化振興の陰で～」(北海道ローカル)**

△漫画「ゴールデンカムイ」の大ヒット、民族象徴共生空間ウポポイの開業。近年アイヌ文化への興味関心が非常に高まっている。△一方で、かつて直接的だった差別は、いまも形を変えてアイヌの人たちを苦しめる。国会議員に揶揄された当事者、過酷な差別の時代を生きたアイヌ女性、新しいアイヌ文化の形成をめざす若者、そして抗議の声を上げた和人たち。それぞれの証言からアイヌとヘイトの問題を考える。△P：山崎裕侍、栗山亘、D：中島達也

<推薦理由> 東北・北海道地区から上期に推薦できる作品を検討したが、イチオシは残念ながらなかった。上記の番組も完成度や取材深度から判断すると65点～75点だろう。だが、制作者へ視点を移すと、プロデューサーの山崎裕侍は、安倍政権時代の「ヤジと民主主義」以来、「人権と言論」への取材を後輩記者やディレクターとともに、継続的に行っている。

<山崎裕侍> HBCコンテンツ制作センター報道部デスク。71年生まれ、北海道出身。06年HBC北海道放送に中途入社。警察・政治キャップや統括編集長を経て、22年4月から現職。Dの仕事：「命をつなぐ～臓器移植法10年・救急医療の現場から～」、「赤ひげよ、さらば。～地域医療“再生”と“崩壊”の現場から～」など。Pの仕事：「ヤジと民主主義～小さな自由が排除された先に～」、「ネアンデルタール人は核の夢を見るか～“核のごみ”と科学と民主主義～」、「性別は誰が決めるか～『心の生』をみつめて～」など。日本民間放送連盟賞・ギャラクシー賞・文化庁芸術祭賞・放送文化基金賞など受賞。

#### ～村上雅通氏より、24年の民間放送連盟賞から九州中継地区の作品。～

23年12月28日放送、RKB毎日放送 **「魚鱗癬と生きる～遠くんが歩んだ28年～」**

△遺伝子異常に起因する、魚鱗癬という難病の男の子(梅本遼)をずっと28年間追いかけた作品。△男の子がお母さんと二人三脚で、葛藤を乗り

越え成長していく。普通の一般の女性と結婚。披露宴で彼が言う、「絶対理解してくれる人はいる、断言できます、結婚は諦めたら駄目です」と。△母子の人生に言われなき偏見や差別が通底してきたことを制作者はしっかり捉えています。△「28年の総集編」を作ったのは大村由紀子さんですが、関わったディレクターは5人ぐらいで、RKB報道の記者が受け継ぎながら作ってきました。

5月28日放送、KBC九州朝日放送、**「軽ハングール～私がこの道を進むワケ～」**

△軽バンで寝泊まりしながら全国を渡り歩いていく女性たちのドキュメント。△みんな普通の人たちなんです。「普通」ってなんだろうと考えさせられた。△同世代の女性・ディレクターの作品。

23年12月30日放送、FBS福岡放送、**「なんでも特命係発見らくちゃく！～28歳小卒女性SP完全版～」**

△小学校卒業の女性が高校に通いたいとの願いを叶える。彼女は本当に凄まじい人生です、病気も抱えています。この女性が2日間高校に行く。△実は、この番組はレギュラー番組で、毎週放送していて、これだけの質を提供し続けているスタッフの努力に拍手を送りたい。

△ギャラクシー賞優秀賞受賞。

**～24年度・前期・テレビドラマより～**

4月15日（月）22:00～、54分枠、全11回・フジテレビ **「アンメット ～ある脳外科医の日記～」**

事故で過去2年の記憶を失い、新しい記憶も1日で忘れてしまう脳外科医のヒューマンドラマ。△出演：杉咲花、若葉竜也、岡山天音、生田絵梨花、千葉雄大、吉瀬美智子、井浦新、△原作：小鹿ゆずる、大槻潤人（漫画）、脚本：篠崎絵里子、D：Yuki Saito、本橋圭太、P：米田孝、本郷竜也、制作著作：カンテレ。～ヒロイン杉咲のそばかすがミヤビの人柄を伝えている。自分とは何か。完成度、高し。～

4月30日（火）22:00～、44分、全10回・NHKG **「薫は戻ってこない」**

命は誰のもの？ 貧困からの脱出が招く、代理出産をめぐる男たち女たちの欲望のドラマ。△出演：石橋静河、稲垣吾郎、内田有紀、森崎ウィン、朴璐美、富田靖子、中村優子、戸次重幸、黒木瞳、△原作：桐野夏生、脚本：長田育恵、△演出：田中健二、山戸結希、北野隆、P：板垣麻衣子、大越大士、制作統括：清水拓哉、磯智明、制作著作：NHK、～田中演出が良い。完成度高し。少子化対策を考える政治家・官僚に見て欲しい～

7月3日（水）22:00～、54分枠、全11回、フジテレビ **「新宿野性病院」**

命がテーマの緊急医療エンタメ。△出演：小池栄子、仲野太賀、平岩紙、岡部たかし、塚地武雄、余貴美子、高畑淳子、生瀬勝久、柄本明、橋本愛（NPO）、濱田岳（K官）△脚本：宮藤官九郎、D：河毛俊策、澤田鎌作、清矢明子、P：野田悠介、制作協力：5switch、制作P：遠藤光貴、制作著作：フジテレビ、

5月3日（金）15:05～、49分、NHKG **第47回創作テレビドラマ大賞「ケの日のケケケ」特別版**

△初回放送：3月26日（火）22:00～、44分、NHKG。△“感覚過敏”の高校生の少女が、不機嫌なモンスターにならないためのたゆまぬ努力とは…。仲間とともに自分の居場所づくりをする。△母は再婚し、赤ちゃんが誕生～。△すべての「生きづらさ」を感じる人々に勇気を届けたい。△出演：當真あみ、奥平大兼、小宮山莉渚、望月歩、中井友望、伊礼姫奈、岡山天音、山田キヌヲ、板橋駿谷、尾野真千子、△脚本：森野マッシュ（女性・27歳）、感覚過敏考証：加藤路映、黒川駿哉、演出：堀切園健太郎、P：樋渡典英、鹿島悠、制作統括：落合将、遠藤理史、制作：NEP、制作著作：NHK、～これは!! 秀作だ!!～

4月1日～9月27日・26週・130回 24年度前期・**連続テレビ小説「虎に翼」**

日本で初めて法曹の世界に飛び込んだ、一人の女性（三淵嘉子）の実話に基づくオリジナルストーリー。困難な時代に立ち向かい、道なき道を切り開いてきた法曹家たちの情熱あふれる姿を描く。△脚本家の吉田は言う「エンタメが『透明化してきた人々』の多さ。その罪深さを感じます。私は透明化されている人たちを描き続けたい」、と。

△出演：伊藤沙莉、岡田将生、土居志央梨、戸塚純貴、沢村一樹、松山ケンイチほか、△脚本：吉田恵里香、取材：清永聡（解説委員、元司法担当）、法律考証：村上博（明大法学部教授）、ジェンダー・セクシュアリティ考証：前川直哉（福島大准教授）、資料提供：明治大学史資料センター、制作統括：尾崎裕和、P：石澤かおる、船橋哲男、徳田洋子、演出：柳川善郎、安藤大佑、橋本万葉、伊集院悠、相澤一樹、酒井悠。

～今、私たちはどこまで来ているのか、何が実現して、何が課題として残っているのか。考えさせられる。～

1月7日（日）20:00～、41分、全??回 **大河ドラマ「光る君へ」**

主人公は紫式部、平安時代に千年の時を超えるベストセラー『源氏物語』を書き上げる。藤原道長（柄本佑）への思い、そして秘めた情熱とたくいまれな想像力で、光源氏＝光る君のストーリーを紡いでゆく。変わりゆく世を、変わらぬ愛を胸に懸命に生きた女性の物語。

△出演：吉高由里子、柄本佑ほか、△脚本：大石静、時代考証：倉本一宏、制作統括：内田ゆき、松園武大、P：大越大士、高橋優香子、川口俊介（広報）、演出：中島由貴、佐々木善春、中泉慧、黛りんたろう他。 ～大石さん、達者です。～

1月13日（土）10:45～、30分、全4話。HTB開局55周年ドラマ『弁当屋さんのおもてなし』シーズン2

△札幌で見つけた、人生が変わる魔法のお弁当。札幌の路地裏の小さな弁当屋『くま弁』は、北海道の食材がふんだんに使われる絶品お弁当と素敵なおせつかいで、悩めるお客は生きる力と希望を取り戻していく…。△なお、シーズン1は東京ドラマアウォード2023の「ローカル・ドラマ賞」を受賞。北海道映像コンテスト2023の番組部門(放送)で優秀賞を受賞。△原作：喜多みどり（札幌出身）、脚本：山本透、音楽：柴田聡子、△出演：久保田紗友、飯島寛騎、山野久治、戸次重幸、語り：くま弁のくんた（森崎博之）、各回ゲスト。△演出・編集：平尾由佳子、瀬戸川雄一、P：星悠平、野沢和寿、EP：戸島龍太郎、制作著作：北海道放送、

2月7日（水）20:00～、44分×全3話 RBC創立70周年特別番組 琉球歴史ドラマ第3弾『阿麻和利 THE LAST HERO』

△15世紀、琉球が統一され20年、勝連では領主が民を苦しめていた。勝連の村で拾われ育てられた阿麻和利は領主を倒して、貿易により勝連を繁栄させるが、王府の跡目争いに巻き込まれ、王府と勝連の戦いが始まる…。△24年日本民間放送連盟賞 番組部門 テレビドラマ番組・優秀賞を受賞。△出演：佐久本宝、比嘉梨乃、山田孝之、末吉功治ほか、△D：土田豪介、歴史監修：賀教仁然、主題歌：HY「君と未来」、P：高良城、野崎洋平、中川英俊、伊波勇作、制作統括：小濱裕、嘉陽順、制作著作：RBC琉球放送。 ※脚本のクレジットは無い。

※2016年「尚円志」全3話、2019年「尚円王」全3話。

7月25日（木）配信・全7回・Netflix 『地面師たち』

D・脚本：大根仁、原作：新庄耕、音楽：石野卓球、脚本協力：黒住光、楠野一郎、二宮孝平、P：吉田憲一、三宅はるえ、出演：綾野剛、豊川悦司、北村一輝、小池栄子、ピエール瀧、染谷祥太、リリーフランキー、山本耕史、ナレ：山田孝之、各回：騙されるゲスト。制作プロダクション：日活、ブースタープロジェクト、製作：Netflix ～制作費が画面に滲み出るね。大根節が爆発！～

## 「松尾羊一」を読む

菅野高至

前号で、どうして松尾さんの評論には、制作者の私の名前がないのだろうか、と嘆いた。02年1月発行の『テレビドラマを『読む』』映像の中の日本人論の『はじめに』で、「ドラマがひそかにたたえる時代の気分をどう読み取るか」に彼は関心があると書いている。プロデューサーの名前は、読者も興味が無いから書くに及ばずということらしい。

前掲書の第一章「アジアを視野に入れる21世紀型ドラマの予感——『小さな橋を架ける』（脚本：山田太一、演出：大山勝美）について」書いているところで、唐突に「ところで以前、在日韓国人・朝鮮人たちの『大きな橋』と正面から取り組んだ力作があった。『李君の明日』（脚本：田中壘子、演出：小林武、90年NHK大阪制作）である。／済州島出身の三世代にわたる在日韓国人一家がもつ『在日』意識を克明に描いていた。まだ指紋捺捺や外国人登録証の常時携帯が義務とされた頃のドラマだった。」

望郷の念で生きる祖母世代、勉強していい学校出て「日本人に負けるな」との父親たちが在日二世に、反抗する三世。共感を寄せる帰国子女は日本に違和感を持つ。「かなり図式風な構成ながら、抑圧と同化のはざままで苦悩する『在日』の家族のアイデンティティを主題にした単発ドラマだった。」

「図式風な構成」とは、仰せの通りでグーの音も出ない。敢えて弁解すれば、ロケ地の猪飼野（大阪市生野区）は、今でこそコリアンタウンとして活況を呈すが、当時は馴染みのホルモン焼き以外は歩くのが怖かった。原作者の

元秀一の勧めで、南と北、民団と総連のそれぞれの支部に頭を下げに行く。総連の支部が入るビルは、いかにも暗く高い天井で緊張を強いられた。挨拶が済んで帰り際に、総連の人に「観光に行きませんか、ご案内しますよ」と誘われる。

つい、脱線したが、松尾さんの本に戻る。その第一章の終わりに松尾さんは、「冗談だが：（略）朝のテレビ小説の題名に『あしたの風』花子と李君』が現れたっていいはずだ」、「在日滞在外国人の影が見えない」ドラマは不自然で、「テレビドラマはもつとアジアを視野に入れ、接舷する題材を広く求める時代に入ってきたようだ」と書いたが、その願いは果たされていない。



テレビ遊歩道（II）の97年12月7日に、「ある集まりがあった。東京在住者が大半だが、はるばる九州や中国、大阪などから駆け付ける者もいて総勢約二百人。『放送人の会』（会長・川口幹夫）の発足である。」

かつては、私も放送人の一人で、「きがつせいな職人の気位程度はもっていた。亡き稲荷町の師匠、林彦六が取材で答えた。「新しい研究をしていると世の中がこわくなりませぬねじつとしてるってえことは、こわいことではないです。」

師匠のあなたは「とんがり」、反骨精神である。師匠の「研究」は「晝斎の空論ではない。実践」である。

「博識を鼻にかけず、老いてもかすかすの新作に挑み、陋屋でまっとうした。ホウソウジンもかくありたいもので、まちがっても名刺が背広をきたような鈍感なサロン屋であつてはなるまい」、「業界語を使わず市民と直接連帯し、言葉交わすことだ。放送を軽蔑するものは、軽蔑に値する放送しかもてない」。

若い放送人と向き合う会にしたいもの、「時代がちがうよ」とそっぽを向く時代ではないのだ。

このコラムのタイトルは『放送人の会』とは？である。設立の趣旨もちゃんと書いてあつたが長くなるので省略した。

おい、長々と引用して原稿の枚数を稼ぐのかいと、「陋居さん」は笑っているようなので、こゝら辺でお開きとしたい。

「陋居さん、ありがとうございます。」  
(二〇二四年秋)

# 第97回放送人句会

令和六年八月一日(木) 於 赤坂・晝屋

出席 中村フミ 林備後 佐々木光野

深尾一化 近藤久仁 松田幸雄

兼題 星祭 カンナ 南瓜

(業界用語) 板付

堅物も腹割れば良き南瓜かな 一化  
エキストラ板づいたまま秋暑し 幸雄  
星祭り一人足りない島の宿 久仁  
星祭り逢ひたき人の多きかな フミ  
カンナ燃ゆ鉄路の傍の庵屋に 一化

灯を点す四畳ひと間の星まつり 備後  
ドン詰まり貧乏長屋カンナ立つ フミ  
南瓜炊く夕餉の匂ひ両隣 フミ  
星ひとつたもとに入れて織女行く 備後  
板付きで待つ子の笑顔西瓜割る フミ  
土手南瓜童子の涙黒かりき 久仁  
ドローンが演ずる今宵星祭 一化  
瓶の底並べし花壇カンナ咲く 一化  
看護師に添はれて眺むカンナかな 久仁  
星祭り別れたひとが夢に立ち 久仁  
離農せる荒れし畑や南瓜成り 光野  
大包丁切れぬ南瓜よ頑として 光野  
板付の闇に蠢く夏の虫 フミ  
人生の答も出たり星祭り 幸雄  
盆狂言屋号を呼ばれ板付きし 光野  
退院す夕餉の南瓜なつかしみ 久仁  
息凝らし真二つに切るカボチャかな 幸雄

次回・第98回  
2024年10月8日(火) 赤坂・花丸  
兼題 林檎 秋深し 渡り鳥  
(業界用語) 巻戻し

**編集後記** ▼発行が遅れた理由。前号の発行時、プリントサービス「キンコーズ」の担当者が、カードの会員証は廃止され、携帯にアプリを入れて置いて下さい。ご利用に応じてポイントが貯まり、割引が適用されます。その代わりに、今までの金曜日の割引は無くなり、いついらしも同一の料金です。▼で、102号の発行を9月30日(月)としました。で、アプリをダウンロードしてHPを確認したら、金曜日には1割引の特典がありました。▼かくして1割引の誘惑に負けて、発行を5日送らせました次第です。申し訳ございません。▼痺れを切らして、お問い合わせをいただいた会員の皆さま、大変申し訳ございません。(たかゆき)

## 会員名簿

2024.10.04 現在

- 【あ】 相田洋 青木裕子 青山悌三 秋田和典 雨宮望 【い】 石井彰 石井ふく子 石田研一 石橋映里 石橋冠 石原信和 板谷駿一 市岡康子 市川哲夫 市村元 伊藤博文 井上佳子 今井義典 芋原一善 岩澤敏 岩瀬弥永子 【う】 上村忠 浮田周男 内山聖子 【え】 江川雄一 遠藤利男 【お】 大池雅光 大浦勝 大川光行 大沢悠里 太田昌宏 大類なごさ 緒方陽一 岡田裕克 岡室美奈子 岡本勉 小川治 小川和之 織田晃之祐 【か】 加賀美幸子 柏木登 片岡敬司 加藤滋紀 加藤義人 金平茂紀 川平朝清 鎌内啓子 亀谷弘美 川喜田尚 河邑厚徳 【き】 北川信 北出晃 北村美憲 北村充史 木下浩一 木原毅 木村成忠 【く】 工藤英博 隈部紀生 訓覇圭 黒崎博 黒沢淳 【こ】 小池勝次郎 河野尚行 小玉滋彦 後藤和晃 小山帥人 近藤邦勝 今野勉 【さ】 斎藤秀夫 斎明寺以玖子 寒河江正 桜井元 佐々木彰 佐々木光政 佐藤敦 佐藤幹夫 佐藤理恵子 佐野有利 【し】 塩田純 重延浩 重村一 重盛政史 静永純一 清水誠 下崎寛 下重暁子 下村幸子 白井博 新山賢治 【す】 菅野高至 菅野嘉則 杉田成道 鈴木俊樹 鈴木典之 鈴木芳夫 鈴木嘉一 須磨章 【せ】 清野豊 関佳史 せんぼんよしこ 【そ】 曾根英二 【た】 高田宏 田澤正稔 多田健 田中秋夫 田中直人 田中典子 田中則広
- 【ち】 千葉邦彦 【つ】 塚原あゆ子 塚本幹夫 次屋尚 辻本昌平 土屋敏男 つポイリオ 露木茂 【と】 東城祐司 戸田桂太 富澤一誠 鳥谷規 【な】 長井展光 中込卓也 中崎清栄 中島僚 中島由貴 永田浩三 永田俊和 中村敦夫 中村克史 中村季恵 中村芙美子 中山和記 【に】 西村与志木 仁藤雅夫 二宮文彦 【ぬ】 沼田通嗣 【の】 信井文夫 延江浩
- 【は】 萩原豊 林健嗣 林安二 林隆太郎 原真 原田令嗣 【ひ】 日笠昭彦 玄武岩 【ふ】 深尾隆一 藤井正博 藤久ミネ 藤村忠寿 古川重樹 【へ】 逸見京子 【ま】 前川英樹 牧之瀬恵子 増山麗央 松田幸雄 丸山友美 黛りんたろう
- 【み】 光原朋秀 三原治 三村千鶴 宮崎洋 【む】 村上光一 村上雅通 村上佑二 村田亨 【も】 本木敦子 元田成 諸橋毅一 【や】 八木康夫 矢島良彰 藪内広之 山鹿達也 山崎隆保 山崎裕 山路家子 山田尚 山登義明 山根基世 【よ】 吉澤保 吉田賢策 吉村直樹 【わ】 若泉久朗 和崎信哉 渡邊浩平 渡辺紘史 (会員 187名)



【賛助会員】 日本民間放送連盟 TBSメディア総合研究所 融合研究所 日本ケーブルテレビ連盟 放送人の会HP